



# Web Fairy

# Paradise

第112号

## 今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第 95 回 WFP フェアリー作品展 (再掲)
- ・ 第 96 回 WFP フェアリー作品展
- ・ Fairy of the Forest#53
- ・ 第 116 回推理将棋出題

## 結果発表

- ・ 第 94 回 WFP フェアリー作品展
- ・ フェアリー版くるくる作品展7
- ・ 第 109 回推理将棋出題
- ・ 第 110 回推理将棋出題
- ・ カピタン展示室 No.28

## 読み物

- ・ Imitator 超入門 (たくぼん)
  - ・ WFP サロン (縫田光司・神無太郎)
- (改訂:2017/10/31)



2017/10

## はじめに



### 愛媛国体

第 72 回国民体育大会 愛顔(えがお)つなぐえひめ国体が 9 月 30 日の開会式をかわきりに 10 月 10 日までの期間で開催されました。私もバドミントン競技の役員として3日間役員としてお手伝いしてきました。県より数年前から各競技団体に対して天皇杯、皇后杯1位の至上命令が出されており、各競技団体は予算を取り、競技力向上の強化練習に励んでまいりました。我がバドミントン競技はやはり日本リーグに参戦する実業団を有する都道府県が強くてなかなか天皇杯皇后杯ポイント(ベスト8以上)を取ることが出来ませんでした。今回、成年男子、少年女子の2部門でベスト8入り出来て何とか面目を保った結果でした。私が印象に残ったのは応援の力。地元開催ということで愛媛県のチームを大応援団で応援するのですが、それに勇気付けられてか相手選手がやり難いのかは分かりませんが格上相手に勝利したり健闘したりする場面を何度も見ました。あれだけの応援には選手も諦められないですね。いい経験をしました。

もう一つの役得は、会場の視察に皇族の眞子様がお越しになられたこと。私の2m前を歩かれ本当にお美しく感動しました。オーラも凄かったですね。ご婚約おめでとうございます。

役員ということでカメラ撮影も禁止となっており、その点は残念でした。プレーヤーとしては目の前で山口茜選手や大堀彩選手の試合も見られて楽しかったですね。しかしその間仕事をほっぽりだしておりその後の慌しさは半端なし。次の愛媛開催までは生きてないでしょうから最初で最後のご奉公でした。

## 【募集】

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第111号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

### 協力いただいている方々の HP アドレス

\*ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

#### 占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

## 第95回WFP作品展(再掲)及び 第96回WFP作品展

担当：神無七郎

今回の WFP 作品展は変則的構成。雑談は省略して、いきなり本題に入ります。内容は第 95 回の再掲載分と第 96 回の新規出題分ですが、通常の新規出題だけでなく、以前解答者ゼロとなった **92-13** 一乗谷酔象氏作「輪廻の歩」の再出題と、縫田光司氏作の特別出題を行います。

一乗谷酔象氏作は「第 46 回神無一族の氾濫」の「時は金なり」や、前回の **95-14**「時は金なり 2」を踏まえれば解図可能だと期待しての再出題です。また、縫田光司氏の作品は新たに考案されたフェアリー駒を含め、非常に多くのフェアリー要素が盛り込まれているため、特別出題としました。コーナーは分けていますが、締切や宛先は通常出題分と同じです。

いつにも増して大変な WFP 作品展ですが、解答者の皆さんの奮闘を期待します。

### 〔第 95 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第 95 回の出題は全 14 題(ツインがあるので実質は 15 題)。内訳は上谷直希氏 1 題、青木裕一氏 1 題、占魚亭氏 2 題(実質 3 題)、神無太郎氏 2 題、Pontamon 氏 1 題、変寝夢氏 3 題、縫田光司氏 1 題、尾形充氏 2 題、一乗谷酔象氏 1 題です。出題数が多くて解くのは大変ですが、登場作家数が多く、バラエティに富んだ作品を楽しめると思います。

**95-1** は上谷直希氏による純粋な協力詰。これはノーヒントで解いてください。

**95-2** は青木裕一氏の *Imitator* 作品。走り駒(飛角香)一式と *Imitator* を使うと何ができるでしょうか? ヤマが当たれば早く解けるかもしれません。

**95-3** と **95-4** は占魚亭氏の作品。まず、**95-3** には *Friend* (響) という本作品展初登場の駒が使われています。これは *Orphan* (銜) と対になるような性質を持った駒で、「銜」が相手から利きを貰うのに対し、「響」は味方から利きを貰います。利きを合成できたり、「響」同士で利きを増幅できる点も「銜」と同様です。「銜」「響」と並べて漫オコンビを連想するか、列車を連想するかは人によるでしょう。

**95-4** は *Sparrow* (雀) という、*Grasshopper* の変種を使ったツインです。「雀」はジャンプ台

を跳び越すのではなく、斜めに曲がって戻ってくるのが特徴で、そのために奇妙な現象が起こります。本局はツインになっており、両者とも形は同じですが、一方には *Andernach* (駒を取ると相手に寝返る) という条件が付いています。これは手順にどのような違いをもたらすでしょうか?

**95-5** と **95-6** は神無太郎氏の作品。**95-5** は *Grasshopper* (G) を使った作品ですが、受方持駒 G の数は 3 枚と設定されています。これは金銀桂香が 4 枚あるのと同様に G も 4 枚に設定しただけで、すべて使うとは限りません。神無太郎氏はフェアリー駒を手数分持たせる出題形式を採用することが多かったのですが、今回は別の方式を試してみたのでしょうか。また、この作品での「打歩」は「完全打歩」でも「単純打歩」でも同じです。細かいことは気にせず解いてください。

**95-6** は覆面駒を大量に使用した作品。覆面駒は位置と所属が判明しているだけで駒種は判明していません。ただし、手順の中で種類が判明すれば、覆面駒は通常の駒に戻ります。覆面駒は玉の可能性もありますが、「自玉スタイルメイト」だからといって双玉と決めつけてはいけません。覆面駒を使った作では、初形が合法的な局面であることや、覆面駒の着手は合法手である(攻方の場合は合法的な王手である)ことを前提に着手を進めることができるので、それを利用して目的(攻方をスタイルメイトにする)を達成します。覆面駒の種類を特定することも大事ですが、目的はあくまで攻方をスタイルメイトにすることなので、それが達成されていることさえ証明できれば、種類が不明なままの覆面駒があっても構いません。大量の覆面駒に惑わされず、確実に論理を積み重ねて解いてください。

**95-7** は Pontamon 氏の推理将棋。ちょっと変わっているのは手数もどちらが勝ったかも不明なこと。ただ「成桂を取った」というのは大きなヒントです。手数が不明という点で心理的不安は大きいと思いますが、論理を尽くして最短手順を求めてください。

**95-8**~**95-10** は変寝夢氏の作品群。レトロ、リパブリカン、中立駒。今ではどれもかなり見慣れたものになったと思います。

まず 2 手逆算して 1 手で詰めるレトロの基本形。これはノーヒントでも大丈夫でしょう。

**95-9** は最後に自玉を登場させるリパブリカン

ルールですが、「PWC」という条件も付いています。PWCは大変詰みやすいルールなので、それを利用した詰上りの想定をしてください。

**95-10** は玉が中立駒になっています。玉が中立というのは解釈に迷うかもしれませんが、中立玉に対する王手の判定は指し手が終わった後、手番側の玉とみなした場合に王手が掛かっているかどうかで判定します。例えば初手は、普通に攻方の駒を動かしても良いですし、中立玉を攻駒の利きに入れても王手になるわけです。また、ルールは「自玉詰」なので、受方の手番が終わった時点で、玉を攻方玉とみて詰んでいる状態にしてください。過去にも中立玉を使った作品はいくつか発表されている（**60-4**、**69-7**、**80-8**、**83-13**）ので参考にしてください。

**95-11** は縫田光司氏の作品。レトロ+覆面駒+フェアリー駒というフェアリー要素てんこ盛りの作品ですが、やはり主役はフェアリー駒のOrphan（罨）でしょう。この使い方を中心にイメージーションを膨らませ、詰上りを想定し、覆面駒の正体と逆算手順を求めるのが、通常の解法だと思います。

**95-12** と **95-13** は尾形充氏の作品。共に対抗系（協力系でない）ルールなので、変化・紛れをしっかりと読み切ってください。**95-12** は通常の安南詰であり、最善指定は付いていません。従って普通詰将棋の規則（同手数駒余りを劣位変化として扱う）が適用されます。なお、7手目に軽い非限定があります。**95-13** は前回に引き続き最悪詰の登場です。手数はやや長めですが、最悪詰に慣れた人なら狙い筋はある程度見当が付くと思います。とはいえ、大駒が総登場し、変化も紛れもある構図。丁寧な読みが必要です。

**95-14** は一乗谷酔象氏の一万手越えの大作。「第46回神無一族の氾濫」で登場した「時は金なり」の上位バージョンです。「時は金なり」は残念ながら余詰（この余詰順については前号を参照してください）でしたが、その余詰順を参考にすればこの作品も解けると思います。

なお、「時は金なり」の「成禁」条件について次のような質問がありました。

最終手の52歩の局面ですが、これに同玉と応じられそうです、同桂成と玉を取ることが出来ず、結局は逃れとなるのではないのでしょうか。

本作品展でもそうですが、「成禁」は「手順中に“成”が出ないこと」という定義を採用しています。王手や詰の概念は通常のままです。上の質問で言えば「同桂成」は詰手順中に出てこないで、これで詰として構いません。

逆に、このような手まで禁手としてしまうと、桂香歩がすべて行き所のない駒になるという不都合が生じます。例えば攻方12歩は「成禁」条件下では行き所のない駒になります。攻方13歩もこれを進めると12歩になり、これが行き所のない駒になるので、13歩も行き所のない駒になります。以下同様の理由で、すべての桂香歩は行き所のない駒になります。これが「成禁」の適用範囲を「手順中」に限定する理由です。

もちろん、上記のような不都合を避ける定義は他にも考えられると思いますが、最も簡便な定義として「手順中」に現れる「成」のみを排除する現在の定義を採用しています。

#### 〔第96回作品展各題への補足説明〕

第96回の出題は通常の新規出題14題（内1題はツイン）、特別出題1題、**92-13**の再出題の計16題。特別出題については別項で説明をしますので、ここでは残りの15題（内訳は神無太郎氏4題、占魚亭氏2題、上谷直希氏2題、青木裕一氏1題（ツイン）、変寝夢氏3題、Pontamon氏1題、尾形充氏1題、一乗谷酔象氏1題）について補足をします。

**96-1**～**96-4** は中立駒を使った作品。神無太郎氏自身が中立駒に慣れるために作ったせいか、玉を除くすべての駒が中立駒になっている問題設定です。ただし**96-1**と**96-2**は「成禁」の指定があり、**96-3**は大駒不使用、**96-4**は中立駒化した通常駒の他に中立駒のGrasshopperが使われています。細かい設定の違いに注意して解いてください。

**96-5**と**96-6**は占魚亭氏の作品。Imitatorではなく、性能変化ルールでの登場です。しかもかなりマイナーな「側面」（左右にある相手駒の性能になる）と、「飛び対面」（一間空いた前にある相手駒の性能になる）というルールです。前者は以前のWFP作品展で登場したことがありますが、後者は初めて見るルールです。WFP作品展**58-4**で変寝夢氏が「安北2」というルールを披露されたことがありますが、この流儀に従えば「飛び対面」は「対面2」になります。もし、この種のルールが流行るようなら、統一

的なルール名称を考えなくてはなりませんね。

**96-7** と **96-8** は上谷直希氏の作品。どちらもキルケ系の作品で、**96-8** はマドラシとの複合ルールになっています。難解作ではないはずですが、どちらもルール固有の手筋を利用した作品なので、ルールを忘れた（あるいは知らない）場合は、易しめの過去問で感覚を慣らしておくのが良いでしょう。

**96-9** は青木裕一氏の作品。普通詰将棋と最善詰という近似ルールのツイン（組局）です。配置はまったく同じで、ルールもほとんど同じ。でも手数は違います。なぜこんなことが起こるのか、実際に解いて確かめてください。

**96-10**～**96-12** は変寝夢氏の作品。例によってそれぞれルールが違います。

**96-10** はリパブリカンと中立駒の組合せ。最初は雲を掴むような感じかもしれませんが、盤面をじっくりと見ていると、自玉の発生位置が頭に浮かぶのではないのでしょうか？

**96-11** は6手逆算して1手詰を作る問題。夜（NightRider）という強力な駒が使われていますが、使用駒も限られているので頑張れば解けると思います。

**96-12** はPaoの拡張版であるLeoを使った問題。当然LeoはPaoより強力ですし、Andernachとの組合せで何が起こるかも想像しにくいと思います。今回の氏の3作で最も難しい作品だと思います。

**96-13** はPontamon氏の推理将棋。条件も豊富に付いていて、普通の推理将棋っぽいですね。ポイントはずばり条件3)。「打」を明記しないといけない状況を作りましょう。

**96-14** は尾形充氏の最善自玉詰。氏の得意分野ですので、解かないと損ですよ。

**92-13** は難解過ぎて正解者ゼロとなった一乗谷酔象氏の「輪廻の歩」の再出題です。以下に当初出題時の補足説明を抜粋します。

**92-13** は一乗谷酔象氏が自身で「天使詰」と名付けたルールの作品。「悪魔詰」と同様、双方が協力して最長手数を目指すのですが、不詰手順があればそれを選ぶ「悪魔詰」と違い、「天使詰」は不詰手順を回避します。つまり意味的には「最長協力詰」です。このルールは「同一局面禁」も内包しており、初形を含め手順中に同一局面が二回出現することは禁止されています。このとき気をつけないといけないのが、「同一局

面」の判定基準です。同一局面は盤上の配置、持駒だけでなく、手番も一致しないとイケないことに留意してください。

更にこの作品には2つの条件が付加されています。「成禁」と「非王手可」です。「成禁」はあくまで手順中に成る手が出てこないことであり、王手や詰みの判定には適用されません。玉を取る時、駒を成る必要があっても、それは有効な王手とみなされます。また、「非王手可」は文字通り攻方に王手義務がないことです。「王手を掛けなくても良い」であって、「王手を掛けてはいけない」ではありません。

**92-13** の出題は「汎濫 46」の「時は金なり」より早かったのですが、それも解答が寄せられなかった要因の一つでしょう。今回こそは正解が寄せられることを期待しています。

### 解答要項

第95回分解答締切:2017年11月15日(水)

第96回分解答締切:2017年12月15日(金)

宛先: [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

### 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

### WFP 作品展: 年末年始の予定

来年1月は「汎濫」結果稿の作成と重なるため、WFP作品展12月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	11月	12月	1月	2月
第96回	再掲	結果		
第97回	出題	再掲	再掲	結果
第98回			出題	再掲
第99回				出題



## ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule88.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

### 【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

### 【Friend】(響)

フェアリーチェスの Friend。

本来は利きを持たないが、味方の駒の利きに入ると、その駒の利きを持つ。

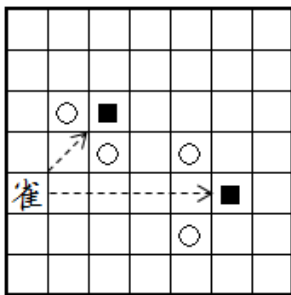
(補足)

- ・複数の味方駒から利かされると、それらを合成した利きになる。
- ・味方の Friend から利きを写すこともできる。利きの転写は再帰的で、利きが増えた結果、更に多くの Friend を巻き込み、相互に利きを増幅させることも可能。

### 【Sparrow】(雀)

フェアリーチェスの Sparrow (雀)。

グラスホッパーの変種で、クィーンの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し 135° 曲がった場所に着地する。



(○が雀の利き。■は敵または味方の駒。)

### 【Andernach】

駒取りを行った駒 (玉を除く) は、その場で相手の駒となる。

(補足)

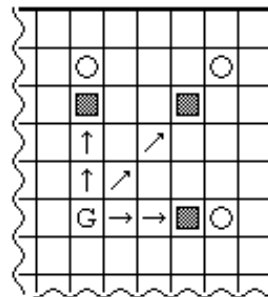
- 1) 取ると二歩になる場合相手の駒にならない
- 2) 駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3) 駒取りの場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能 (二歩の例外を除く)

### 【打歩】

打歩詰以外の詰手を失敗とする。(単純打歩)。

### 【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(○がGの利き)

(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないとは動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

### 【覆面駒】

種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。駒種が確定すると通常の駒に戻る。

(補足)

- ・透明駒と異なり所属・位置は判明している。
- ・手順表記上「成」は指定できるが、「生」は指定できない。つまり、移動についての情報と、駒が裏返ったという情報は与えることができる。
- ・初形が合法局面であることが仮定される。つまり、行き所のない駒や二歩がないこと、(受先形式でない場合) 受方玉に王手が掛かっていることを推論に含められる。また、特に指定のない限り標準駒数であることも推論に利用できるが、ルールから明らかでない限り双玉・単玉両方の可能性がある。

### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト (王手は掛かっているが合法手のない状態) にする。

### 【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

### 【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

#### 【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

#### 【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

#### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

#### 【中立駒】(「」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、

成ることができる

- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

#### 【Orphan】(餌)

フェアリーチェスの Orphan。

本来は利きを持たないが、敵駒に取りを掛けられると、その駒の利きを持つ。

(補足)

- ・複数の駒から取りを掛けられると、それらを合成した利きになる。
- ・敵 Orphan から利きを写すこともできる。利きの転写は再帰的で、利きが増えた結果、更に多くの Orphan を巻き込み、相互に利きを増幅させることも可能。

#### 【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

#### 【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

#### 【天使詰(最長協力詰)】

先後協力して最長手順で受方玉を詰める。

(補足)

- ・悪魔詰と異なり不詰は避ける
- ・手順中に同一局面があってはならない(初形を含む)
- ・目的が「詰」でない場合、上記「詰」をその目的に読み替える

#### 【成禁】

手順中に成る手があってはならない。

(補足)

- ・あくまで手順中に「成」が出ないだけ。「詰」や「王手」の概念は通常通り。

#### 【非王手可】

攻方に王手の義務がない。

(王手をしても良い)

【側面】

敵駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

【飛び対面】

2 枡前に敵駒あるとその性能に変化する (互いに利きが入れ替わる)。

【キルケ】

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は生駒になって戻る。
- 2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩になったりする場合は戻れない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香 (成駒も含む) が 5 筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻り位置を選択できる。

【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。ただし、玉は除く。

(補足)

- ・玉にもこの規則を適用する場合は「Kマドラシ」と表す。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。
- ・利きが消えるかどうかは「本来の利き」に入るかどうかだけで判断する。

【詰将棋】

攻方は受方がどのように応じて詰むように攻め、受方はなるべく詰まないように応じる。(いわゆる普通の詰将棋)

(補足)

- ・本作品展では普通の詰将棋は「詰将棋」と表記して出題する。複合ルールの場合は組み合わせるルール名の後に「詰」を付けて表す。
- ・攻方最短を要求するときは「最善詰」とする。

【最善詰】

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。

(補足)

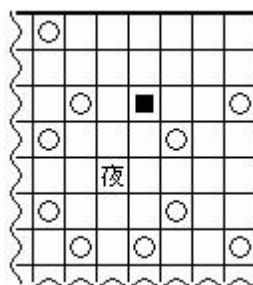
- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉 (無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則) を取り除き、攻方最短を義務化

したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数之余詰は不問。

【NightRider】(夜)

フェアリーチェスの NightRider。

ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



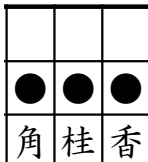
(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。

3 2 1



例えば左図で、  
一 12 香や 11 香成は不可。  
二 22 角や 11 角は不可。  
三 11 桂成や 31 桂成は可。

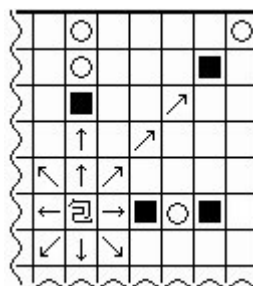
(補足)

- ・ホッパー系の駒のジャンプ台になる。

【Leo】(包)

フェアリーチェスの Leo。

中国象棋の Pao の利きの方向をクィーンにしたもの。駒を取らずに動く時はクィーンと同じ。駒を取る時はクィーンの方向に 1 枚だけ駒を跳び越えて動く。



(矢印が Leo の動く方向。○は Leo が駒を取る時の利き。■は敵または味方の駒。駒を 2 枚跳び越すことはできない。)

(補足)

- ・混同のおそれがない場合、本作品展では表記は「包」を使う。Pao と区別するときは「炮」などを使う。

【白玉詰】

攻方は白玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

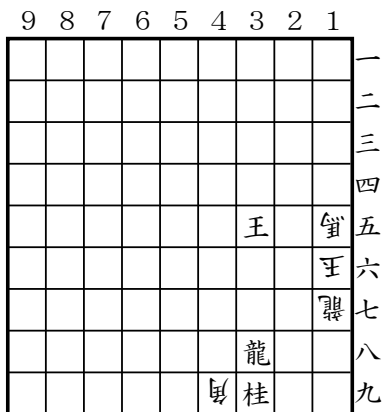


《第95回 WFP 作品展》(再掲)

解答締切：2017年11月15日(水)

■ 95-1 上谷直希氏作

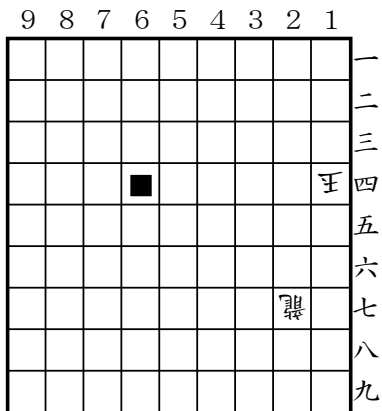
協力詰 9手



持駒 香

■ 95-2 青木裕一氏作

協力詰 5手

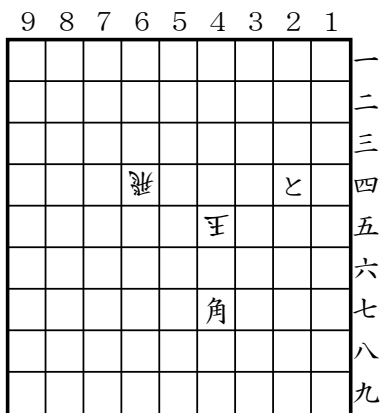


持駒 角香

※■：Imitator

■ 95-3 占魚亭氏作

協力詰 7手

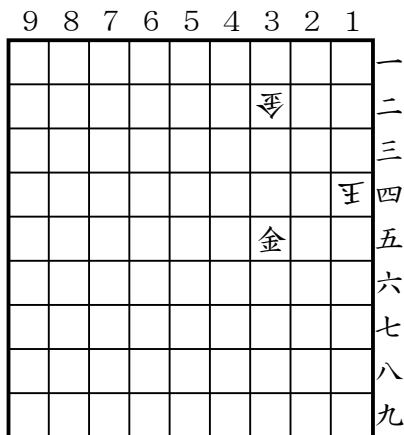


持駒 響

※響：Friend

■ 95-4 占魚亭氏作

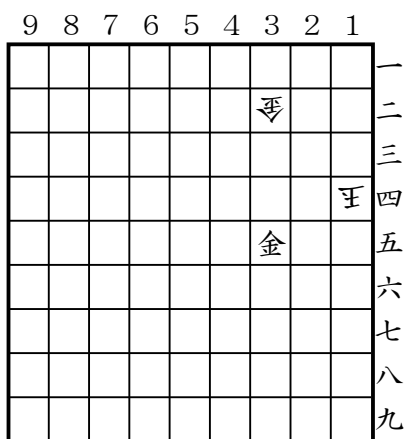
a) 協力詰 7手



持駒 雀

※雀：Sparrow

b) Andernach協力詰 7手

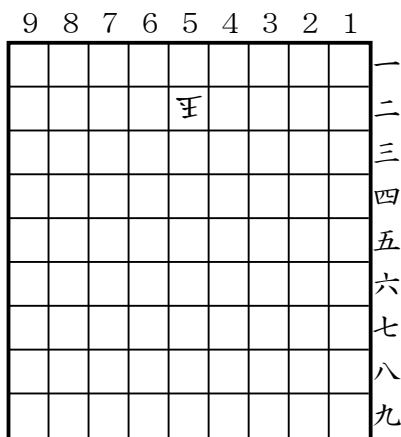


持駒 雀

※雀：Sparrow

■ 95-5 神無太郎氏作

打歩協力詰 15手



攻方持駒 歩2G

受方持駒 残り全部+G3

※G：Grasshopper

■ 95-6 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト 32手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
		▽	▲		▲	▽		二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 ▲15

※▲：攻方覆面駒

▽：受方覆面駒

■ 95-7 Pontamon 氏作

推理将棋

「先輩たちが帰ったから盤を片付けようか」  
 「駒台には桂が一枚だけ。これは成桂を取ったもの  
 のだと言ってたよ」  
 「この終局時の持ち駒になる最短手順だつてね」  
 「最終手は、勝った方から見て最奥から2段目な  
 んだ」  
 「一体、何手で詰んで、どんな手順だったんだろ  
 う」

[条件]

平手実戦初形から次の条件を満たす最短の手順  
 を求めよ

- 1) 終局時の駒台の駒は、成桂を取った桂が1枚  
 だけ
- 2) 最終手は、勝者側から見て最奥から2段目の着  
 手 (※注)

(※注) 先手勝ちなら最終手は2段目、後手勝ち  
 なら最終手は8段目



■ 95-8 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -2+1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
							角	四
								五
				王				六
							龍	七
								八
								九

持駒 なし

■ 95-9 変寝夢氏作

PWCリパブリカン協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
						王		七
								八
								九

持駒 香

■ 95-10 変寝夢氏作

協力自玉詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								一	
								二	
								三	
						銀	皇	金	四
									五
							糸	州	六
						桂		桂	七
									八
							金	銀	九

持駒 なし

※17玉は中立駒

■ 95-11 縫田光司氏作  
レトロ協力詰 -2+1手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			▲	王		銀			五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 残り全部+碁  
※▲：攻方覆面駒  
碁：Orphan

■ 95-12 尾形充氏作  
安南詰 9手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

				銀					一
									二
			馬					王	三
								角	四
									五
									六
								駒	七
									八
									九

持駒 桂歩  
※7手目非限定あり

■ 95-13 尾形充氏作  
最悪詰 29手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								飛	六
			飛			王			七
					王	歩	歩		八
					王	王	入		九

持駒 なし

■ 95-14 一乗谷酔象氏作「時は金なり2」  
成禁非王手可天使詰 10697手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

金		銀		王		銀			一
	歩		歩		歩	歩	歩		二
歩									三
香			桂	桂					四
香	桂								五
桂	香								六
香		歩		歩					七
歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩		八
王		駒		駒					九

攻方持駒 歩2  
受方持駒 なし

以上



《第96回 WFP 作品展》

解答締切：2017年12月15日（金）

■ 96-1 神無太郎氏作

成禁協力詰7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				王					二
									三
									四
									五
				角					六
									七
				角					八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 残り全部（中立駒）

■ 96-2 神無太郎氏作

成禁協力詰13手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
		香				香			七
				王					八
									九

攻方持駒 n香2

受方持駒 残り全部（中立駒）

■ 96-3 神無太郎氏作

協力詰15手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
				王					八
									九

攻方持駒 n香2

受方持駒 残り小駒全部（中立駒）

■ 96-4 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト9手（※受先）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

王	ウ								一
									二
									三
		金							四
									五
									六
									七
									八
								王	九

攻方持駒 n角n桂nG

受方持駒 残り全部（中立駒）+nG5

※nG:中立Grasshopper

■ 96-5 占魚亭氏作

側面協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
			馬						二
			歩						三
									四
				王		飛			五
									六
				桂					七
									八
									九

持駒 なし

■ 96-6 占魚亭氏作

飛び対面打歩協力詰9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				飛					二
									三
				馬					四
				王					五
				龍					六
									七
									八
									九

持駒 桂

■ 96-7 上谷直希氏作

キルケ協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
龍	王		王						二
ス									三
									四
									五
									六
									七
								金	八
									九

持駒 角

■ 96-8 上谷直希氏作

キルケマドラシ協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
王									九

持駒 飛

■ 96-9 青木裕一氏作

a) 詰将棋 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				料			皇	皇	一
							王		二
							料		三
			龍					馬	四
							歩	馬	五
				香					六
									七
									八
									九

持駒 なし

b) 最善詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				料			皇	皇	一
							王		二
							料		三
			龍					馬	四
							歩	馬	五
				香					六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 96-10 変寝夢氏作

リパブリカン協力自玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王		一
									二
									三
									四
									五
									六
						料			七
									八
									九

持駒 n角

※n角：中立駒の角

■ 96-11 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -6+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

●			●						一
			料						二
									三
									四
	●		王						五
									六
									七
								王	八
									九

攻方持駒 夜

受方持駒 角

※夜：Nightrider

●：石（着手不可、不透過）





今回、縫田光司氏の作品を特別出題します。

この作品は新たに考案されたフェアリー駒を使っている上、それ以外にも多数のフェアリー要素を含むため、特別出題としました。

また、解答募集は行いませんが、この作品の発展形で、おそらく解答不能と思われる図も紹介します。この図に余詰があるなら別ですが、もしこれに正解が送られてきたら、それは詰将棋界の枠を越えた快挙となると思います。

何はともあれ、まずはその作品をご覧くださいませ。共に通常より大きい盤を使用しています。また、作者が考案した「迷彩駒」(透明駒と同様の性質を持つが、種類は確定している。配置や所属は不明)も使われています。ルール説明とルールや作品についての補足説明もありますので、よく確認して解図に取り組んでください。

■ 96-sp1 縫田光司氏作

禁欲協力自玉多玉詰 2手

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

●	●	*	*	*	*	*	*	*	●	●	一
●	●	*	*	*	*	*	*	*	●	壘	二
零	●								●	▽	三
零	●								●	▽	四
零	●								●	▽	五
零	●								●	▽	六
零	●								●	▽	七
●	●	*	*	*	*	*	*	*	●	壘	八
●	●	*	*	*	*	*	*	*	●	●	九
●	●	*	*	*	*	*	*	*	●	●	一〇
包	●	●	●	半	半	半	半	半	●	●	一一

攻方持駒 城

受方持駒 零

※迷彩中立碁 (Orphan) 14枚使用

城；Rook-hopper

包；Pao (中国象棋の包)

零；(0,0)-Leaper王

(受方持駒の零も王属性)

●：不透過・不可侵駒 (ジャンプ可)

\*：駒打禁止地点 (移動・通過・存在は可)

△：覆面駒王 (種類は通常駒及び

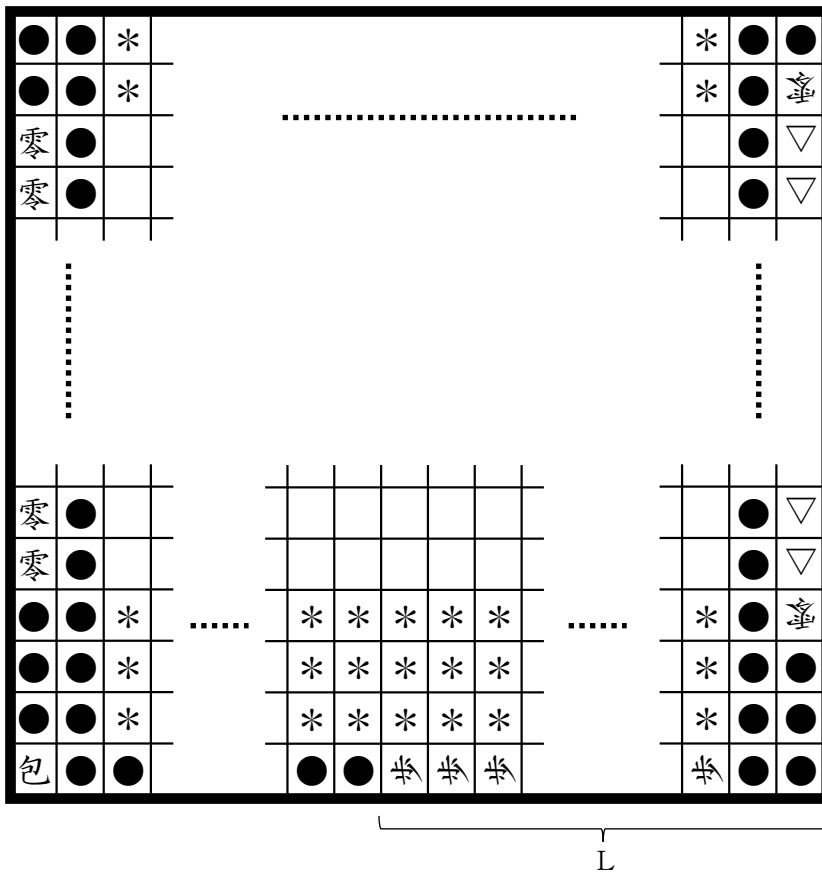
城包零碁のいずれか)

解答締切：2017年12月15日 (金)

宛先：k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

■ 96-sp2 縫田光司氏作 (解答募集対象外)

禁欲協力自玉多玉詰 2手



受方持駒：零  
 攻方持駒：城

※N路盤使用

N段目の3筋からL筋の配置は中立駒の歩  
 1筋の3段目からN-4段目は受方覆面駒王  
 N筋の3段目からN-4段目は攻方(0,0)-Leaper王  
 迷彩中立碁 (Orphan) n枚使用

城；Rook-hopper

包；Pao (中国象棋の包)

零：(0,0)-Leaper王 (受方持駒の零も王属性)

●：不透過・不可侵駒 (ジャンプ可)

\*：駒打禁止地点 (移動・通過は可)

△：覆面駒王 (種類は通常駒及び城包零碁のいずれか)

※N、n、Lの値は以下の通り

$$N = 2^{1024} + 3$$

= 179769313486231590772930519078902473361797697894230657273430081  
 157732675805500963132708477322407536021120113879871393357658789  
 768814416622492847430639474124377767893424865485276302219601246  
 094119453082952085005768838150682342462881473913110540827237163  
 350510684586298239947245938479716304835356329624224137219

**n** = 251959084756578934940271832400483985714292821262040320277771378  
 360436620207075955562640185258807844069182906412495150821892985  
 591491761845028084891200728449926873928072877767359714183472702  
 618963750149718246911650776133798590957000973304597488084284017  
 974291006424586918171951187461215151726546322822168699875491824  
 224336372590851418654620435767984233871847744479207399342365848  
 238242811981638150106748104516603773060562016196762561338441436  
 038339044149526344321901146575444541784240209246165157233507787  
 077498171257724679629263863563732899121548314381678998850404453  
 64023527381951378636564391212010397122822120720357

$$L = (\sqrt{n} \text{の整数部} + 2)$$

= 158732191050391204174482508661063007579358463444809715795726627  
 753579970080749948404278643259568101132671402056190021464753419  
 480472816840646168575222628934671405739213477439533870489791038  
 973166834068736234020361664820266987726919453356824138007381985  
 796493621233035112849373047484148339095287142097834807846

## ルール説明

### 【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

### 【多玉詰】

複数の玉（王属性の駒）を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

### 【石】（●）

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。

本局ではこれを駒とみなし、城や包のジャンプ台として使うことができる。

3	2	1	
□	□	□	一
●	●	●	二
角	桂	香	三

例えば左図で、  
 12香や11香成は不可。  
 22角や11角は不可。  
 11桂成や31桂成は可。

### 【\*】

駒を打てない地点を表す。その地点を通過したり、そこに移動することは可。**迷彩駒が存在することも可能。**

### 【Zero】（零）

(0,0)-leaper。現在位置に移動する。

行き所のない駒にはならない。

**本局の零は持駒の零も含めすべて王属性。**

### 【中立駒】（「♁」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

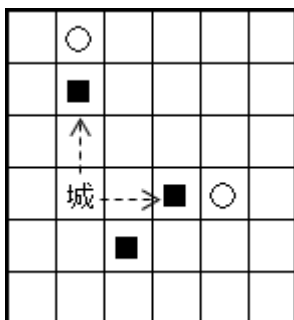
横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。**手番を問わず**、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも**自玉への王手は反則**。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

### 【Rook-Grasshopper (Rook-hopper)】(城)

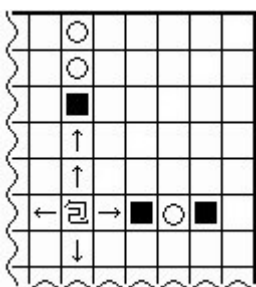
Grasshopper の動きを縦横に制限したもの。縦または横方向にある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(■は何らかの駒。  
○が城の利き)

### 【Pao】(包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。  
○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。

- ・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

### 【Orphan】(飢)

フェアリーチェスの Orphan。

本来は利きを持たないが、敵駒に取りを掛けられると、その駒の利きを持つ。

(補足)

- ・複数の駒から取りを掛けられると、それらを合成した利きになる。
- ・敵 Orphan から利きを写すこともできる。利きの転写は再帰的で、利きが増えた結果、更に多くの Orphan を巻き込み、相互に利きを増幅させることも可能。
- ・中立駒は中立駒を取れるので、中立駒はそれに取りを掛けている中立駒の利きを持つことが可能。更に現手番側の駒でも取れるので、味方の駒で取れる場合は、その利きを持つことも可能。

### 【覆面駒】

種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。駒種が確定すると通常の駒に戻る。

**本局の覆面駒はすべて王属性であり、通常の駒以外に、初形に存在するフェアリー駒(城、包、零、飢)にもなれる。**

(補足)

- ・透明駒と異なり所属・位置は判明している。
- ・手順表記上「成」は指定できるが、「生」は指定できない。つまり、移動についての情報と、駒が裏返ったという情報は与えることができる。
- ・初形が合法局面であることが仮定される。つまり、行き所のない駒や二歩がないこと、(受先形式でない場合)受方玉に王手が掛かっていないことを推論に含められる。また、特に指定のない限り標準駒数であることも推論に利用できるが、ルールから明らかでない限り双玉・単玉両方の可能性がある。

### 【迷彩駒】

**位置が不明の駒。透明駒と異なり種類だけは判明している。**

**着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能**

性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。初形の合法性（受方玉に既に王手が掛かっていないこと）も推論に含めて良い。今回の出題では盤面、攻方持駒、受方持駒のいずれかに、「迷彩」中立駒が指定枚存在する。

#### 〔第 96 回作品展特別出題への補足説明〕

ご覧の通り、この作品は多数のフェアリー要素を含みますが、基本的な構想は非常にシンプルです。解答募集の対象は **96-sp1** のみです。作品の核となるアイデアを見抜けば、見た目よりはるかに易しいでしょう。

**96-sp2** は解答募集の対象外ですが、もし正解が分かったらぜひお知らせください。基本となる仕組みは **96-sp1** と変わりませんが、その難度は次元が違います。

なお、以下はルールに関する補足です。上記のルール説明でも、今回の出題作に関連する固有の事項を赤字で示していますが、ここで改めて説明と補足を行います。

#### ・迷彩駒について

迷彩駒は透明駒と同様の性質を持つが、種類は確定している駒です。

透明駒では攻方と受方の枚数を別々に指定するのが普通ですが、本局の迷彩駒では合計の枚数しか指定されていません。

また、初形に関する制約はどの受方玉にも王手が掛かっていないこととします。初形が逆算可能であることは条件に含めません。

#### ・中立駒の駒 (Orphan) の振る舞い

駒 (Orphan) は「本来は利きを持たないが、敵駒に取りを掛けられると、その駒の利きを持つ」と定義していますが、これが中立駒だとどうなるのでしょうか？ また、取りを掛けている駒が中立駒の場合はどうなるのでしょうか？

これらは今まで明確にしていなかったが、「取りを掛けられた駒の性能になる」という原則に従って振る舞うことにします。

例えば 39 地点に攻方の歩があり、38 地点に中立駒がある状況を考えましょう。この場合は 38n 駒は攻方の手番では攻方の歩の、受方の手番では受方の歩の働きになります。

次に 39 地点に中立駒の歩があり、38 地点に

中立駒がある状況を考えましょう。この場合は攻方の手番のみ、39n 歩が 38n 駒に取りを掛けています。つまり（他の駒の影響がない場合）38n 駒は攻方の手番では攻方の歩の性能になり、受方の手番では、「利きを持たない」という本来の状態に戻ります。

#### ・石 (●) について

従来ルール説明では、ライダー系の駒（飛や角など）の通過と、リーパー系（桂など）の侵入のみ禁止することを明記していましたが、ホッパー系の駒のジャンプ台になるかどうかは明記していませんでした。

今回は「駒」と同じようにホッパー系の駒のジャンプ台となることを明記しました（実は既に f m や fmza でもそのように扱われています）。今後の WFP 作品展でもそのように扱うものとします。ただし、本当に駒として定義すると、駒の所属や性能変化、キルケ系ルールでの扱いなど更に面倒な定義が必要なので、あくまで「駒のようにジャンプ台になる」だけとします。

ホッパーのジャンプすら許さない「壁」が欲しい場合や、ホッパーには「空き枡」のように見える領域が必要な場合、別の名称や記号を考えたいと思います。

#### ・「王属性」について

いわゆる「ロイヤル駒」です (fmza の説明書と用語を合わせました)。自身への取りを放置する手を禁じます。受方持駒の「零」にも王属性が付与されていることに注意してください。

#### ・覆面駒の種類について

覆面駒は種類が確定していない駒ですが、通常の将棋駒以外の駒が使われている場合、そのフェアリー駒にもなれるものとします。また、今後の WFP 作品展でも特に注釈がない限り、この方式を採用します。

今回の出題では覆面駒は通常の将棋駒以外に城、包、零、駒の可能性がります。

以上で今回の特別出題に関する説明を終わります。ルール上の不明点等についてのお問い合わせは解答と同様、[k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) へお願いします。

以上

# Fairy of the Forest#53出題

■ 2017年08月20日：課題発表：（協力詰）

「自由課題」

■ 2017年10月15日：投稿締切

□ 2017年10月20日：出題

□ 2017年11月15日：解答締切

□ 2017年11月20日：結果発表

## ■ 出題

前回に引き続き今回も「課題なし」としましたが、残念ながら作品数は増えませんでした。ただし、「2解」あり、「非標準駒数」ありと、多彩な面も見られます。

01は詰手順を2つお考えください。02は双方の持駒にご注意を。攻方：金14銀16桂、受方：なし、です。

楽しんでいただければ幸いです。1題でも解けた方はご解答をお寄せください。

（解答先）

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

\*\*\*\*\*

■ 53-01 占魚亭 協力詰7手（2解）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
									二
									三
					香				四
				王					五
									六
									七
								香	八
								角	九

持駒 なし

■ 53-02 青木裕一 協力詰65手  
（非標準駒数）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			銀						四
		と	酒	雀	又	と			五
			卒	王	遊				六
			手	王	王				七
			角	桂	と				八
				桂	玉				九

攻方持駒 金14銀16桂

受方持駒 なし

■ 53-03 神無七郎 協力詰69手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		飛	角	金	金	金	角	飛	三
		桂	酒	歩	歩	香		銀	四
		酒			と		桂	王	五
			卒						六
							歩	歩	七
		歩	桂	又	又		卒		八
		銀		手	又	歩		卒	九

持駒 香2歩2



## 推理将棋第 1 1 6 回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第 1 1 5 回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。  
解答、感想はメールで 2 0 1 7 年 1 1 月 1 0 日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第 1 1 6 回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で 1 名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1 題でも解けたらぜひご解答ください。

\*\*\*\*\*

前は解答者が減りましたので今回はやや易しめの選題。“端の手”と“金の手”を含んだ短編 3 問を 9 手、1 0 手、1 1 手と手数順に並べました。

初級は渡辺さん作の 9 手詰。例の形・・・  
とえばわかるでしょう。

中級は担当作の 1 0 手詰。1 筋か 9 筋か、先手か後手か、端金の謎を解き明かしてください。

上級は Pontamon さん作の 1 1 手詰。10 手目と 11 手目のみの簡素条件に謎が潜んでいます。

\*\*\*\*\*

### ■本出題

1 1 6-1 初級 渡辺秀行 作  
2 4 まで 9 手

1 5 地点に着手する駒は何か推理しよう。

1 1 6-2 中級 NAO 作  
端に金 1 0 手

1 筋か 9 筋か、端金の位置を推理しよう。

1 1 6-3 上級 Pontamon 作  
端への桂成り 1 1 手

1 筋か 9 筋か、桂が成って詰む玉形を推理しよう。

\*\*\*\*\*

1 1 6-1 初級 渡辺秀行 作  
2 4 まで 9 手

「おお、9 手で詰んでいるとは。棋譜の最終手に 2 4 と書いてあるね」

「うん、金の着手の後、別の指し手があったから、1 5 に着手していたよ」

(条件)

- ・9 手で詰んだ
- ・最終手の棋譜に 2 4 と書いてあった(※)
- ・金の着手の後、間を空けて、1 5 の着手があった

※“同”が付くのはダメ。8 手目が 24 への着手ではないことも暗に含んでいます。

\*\*\*\*\*

1 1 6-2 中級 NAO 作  
端に金 1 0 手

「たったの 1 0 手で負けちゃった。初手から玉が動いて守り重視のはずだったのに」

「“右”の付く手もあったけど、端に指した金の手が勝負を分けたね」

(条件)

- ・1 0 手で詰んだ
- ・初手は玉が動いた
- ・端に金の手があった
- ・棋譜上“右”の付く手があった

\*\*\*\*\*

1 1 6-3 上級 Pontamon 作  
端への桂成り 1 1 手

「桂をどちらへ成るのか観戦していて興味津々だったよ」

「1 0 手目の金の着手を見て、次の止めの桂成りは端にしたんだ」

(条件)

- ・1 1 手で詰んだ
- ・1 0 手目の金の着手に端への桂成りで応じた。

# 第94回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第94回WFP作品展の結果を報告します。今回の出題数は全12題。94-4は2解のため各解1点で集計しています。解答者数は9名。全題正解者はなし。解答の内訳は以下の通りです。

## 〔第94回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4a	4b	5	6	7	8	9	10	11	12	計
たくぼん	×	○	○	○	×	○	-	○	○	○	○	○	○	10
一乗谷酔象	○	-	-	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	10
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	○	○	10
縫田光司	○	-	-	○	○	-	○	-	○	○	-	○	○	8
はなさかしろう	-	-	-	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	7
変寝夢	○	-	-	○	○	-	○	○	○	○	-	×	×	7
井上順一	○	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	5
詰ガエル	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	5
Pontamon	×	×	-	×	×	-	-	×	-	-	○	-	-	1

今回は、全題正解者こそ出なかったものの、どの作品にも正解があり、総じて解答成績は良好でした。反面、誤解も予想以上に出ました。Imitatorを使った作品に誤解が出るのは、ある程度想定内だったのですが、最善詰や最悪詰などの攻防系（対抗系）ルールでも誤解が出ています。フェアリーは協力系ルールが多いので、攻防系ルールをたまに出されると、感覚の切り替えがうまくいかないようですね。

### ■ 94-1 上谷直希氏作（正解6名）

禁欲最善詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							銀	皇	一
								王	二
							馬	歩	三
							飛		四
							角	香	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※最終手非限定あり

### 【ルール】

### • 禁欲

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

### • 最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。（補足）

- いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数之余詰は不問。

### 【解答】

32 飛生 21 玉 34 飛成 12 玉 23 龍 同飛  
21 馬 同玉 32 香成 12 玉 22 銀成 まで 11 手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
							杏	全	王
							進	歩	三
									四
					角				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

### 【紛れ】

初手 32 飛生のところ

- 33 飛成は 21 角成、同玉、32 龍、12 玉、21 龍、同飛以下不詰
  - 32 飛成は 23 歩合、21 龍、同飛、22 銀成、同飛、21 馬、同玉以下不詰
- （初手不成ならば、23 合/24 合とされても構わず 22 飛が可能。）

3 手目 34 飛成のところ

- 12 角は同玉、34 馬、21 玉、12 馬、同飛、22 飛、同飛、32 香成、12 玉、22 銀成で 2 手長い

### 【変化】

4 手目 12 玉のところ

- 32 合は同馬、12 玉、23 龍、同飛、22 銀成

まで

・ 32 飛は 22 銀生、12 玉、23 龍まで

最終手は 22 銀成でも 22 成香でも良い

【作者のコメント】

原形からの飛の成らせが主眼です。ナラズのアクセントとスピード感にこだわりました。わざわざ角筋を閉じるのは、駒取り以外の王手候補手を無くすため。意味付けはシンプルですが、統一感が表現できていれば。

34 飛成以降は収束。全体の構成としては、捨駒にするための成らせということになるでしょうか。及第点の収束になったと思います。「普通詰将棋っぽい」は褒め言葉ということ！

【解説】

本局の主題は「成るための不成」。これは普通詰将棋だと銀でよく見る手筋です。大駒の場合は飛が多いのですが、希少ながら角でも「成るための不成」があります。

以下の例をご覧ください。

久保紀貴 作

詰将棋 27手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

					王			角	一
		歩	銀						二
			馬				歩		三
							香		四
			龍					龍	五
									六
									七
									八
									九

持駒 金香

(詰将棋パラダイス、2014年10月)

42 香 同玉 12 龍 22 歩 同龍 32 歩

53 金 41 玉 21 龍 31 桂 同龍 同玉

**22 角生 21 玉 11 角成 31 玉 22 歩成 41 玉**

31 と 同玉 21 香成 41 玉 33 桂 同歩

42 歩 32 玉 22 馬 まで 27 手

理論的には成れない駒以外はどの駒でも「成るための不成」ができます。例えば桂なら、35

桂→23 桂生→31 桂成→…→35 圭のような経路で元の局面に戻れば良いわけです。ただし、手数が増えるので、作るなら中編か長編でしょうね。前置きが長くなりましたが、本局の解説に入りましょう。

初形、もし 34 飛が 34 龍ならすぐに収束に入れます。そのため 4 手を掛けて飛を裏返すのですが、そのからくりを見てみましょう。

初手 32 飛生は 22 飛を取るのが狙いです。

43 馬の利き筋を止めないと 21 馬という手が残るので、32 飛は自然ですが、なぜ不成なのでしょう？ 実はここで 32 飛成としてしまうと、合駒されたとき 21 龍という手が生じてしまい、「禁欲」条件により 22 飛が取れなくなります。自らの選択肢を減らしておいて、相手の応手次第で駒を取れるようにしておくわけです。不成としたことで 21 玉と逃げられますが、そこで真の目的である 34 飛成を実現します。

「成る」という真の目的を達成するために、一時的に「不成」を手段として用いる「成るための不成」……逆説的で面白いですね。

際どいのが 3 手目 12 角の紛れ。この手順は合計 13 手かかるので、「最善」指定でぎりぎり逃れています。禁欲詰は余詰が出やすいので、「最善」指定はほぼ必須なのですが、それが顕著な効果を発揮するのがこの紛れ順です。他にも紛れ手順はいくつもあるのですが、本局は効率的な配置で早詰を防いでいます。特に攻方 31 銀の配置は大胆ですね。同じ手順を別の構図で実現できないか試してみれば、本局の配置の効率性がよく理解できると思います。

飛を龍に変えてからは、その龍と馬を次々に捨てる爽快な収束。フェアリー作品は作家がルールに振り回されて、うまく手順をコントロールできないことが多いのですが、本局は構成・演出がしっかりしており、良い意味で「普通詰将棋っぽい」作品に仕上がっていると思います。

【短評】

たくぼんさん (※誤解)

どうやっても詰みそうなのに駒を取らない手が邪魔をする。12 への捨駒 2 連発が好印象。

☆たくぼんさんは「32 飛生 21 玉 12 角成 同玉 34 馬 21 玉 12 馬 同飛 22 銀成 同飛 31

飛成迄 11 手」の解答ですが、最終手 12 玉で詰んでいませんね。暗算による勘違い？

**縫田光司**さん

成らせ物ですね。  
わざと自らの手の選択肢を狭めながら着手する禁欲ルールの味わいもありつつ、簡潔に表現されていて好ましいと思います。

**変寝夢**さん

3 手目は 3 4 以外で作るのかと思ったんだけど（その方が面白そうだから）。  
2 1 馬、2 3 玉、3 2 馬を必要以上に追っかけ回してしまった。

**井上順一**さん

34 飛を龍に変える。初手の不成が巧妙。

**Pontamon** さん（※誤解）

▲32 飛不成、△21 玉、▲12 角不成／成、△同飛／同香／同玉、▲22 飛成  
禁欲も最善詰（攻め方最短、受け方最長）も満たしていると思うのですが...

3 手目に 21 龍の禁欲王手が発生しないように初手を 32 飛不成の空き王手にすれば 3 手詰みだと思ったけど△21 玉があった。  
でも 12 角不成／成で捨てれば何で取っても 22 飛成までの 5 手詰み。

☆Pontamon さんの解答は 4 手目同玉の後、34 馬が優先されるのを見落としていますね。

**占魚亭**さん

4 手かけて飛を竜に。さらっと上手い手順。



■ 94-2 占魚亭氏作（正解 2 名）※実質 1 名

「軽跳影挾」

協力詰 7 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				王					二
									三
									四
		■		王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

※■:Imitator

【ルール】

•Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

•協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【解答】

59 香 74 桂 43 王[166] 58 金 同香[165] 66 桂[157] 56 金 まで 7 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				王					二
									三
				王					四
				王	金				五
					■				六
				香					七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

基本に忠実？な手順でしょうか。

タイトルで桂を跳ねる 6 手目、Imitator (=影) を挟む最終手を明かしています。

【解説】

「軽跳影挟」という四文字熟語っぽい題名の付いた作品。もちろん辞書を引いてもこんな言葉は出てきません。解図のヒントになるよう作者が作った造語です。「軽跳」からは桂跳ねを、「影挟」からは Imitator (影) を活用した手順が連想されますが、影を使って挟むのか、影を挟むのかははっきりしません。とりあえず後半は保留です。まずは桂跳ねにヤマを張るのですが、普通に考えると「香打、桂合、同香、X、桂打、X、桂跳」で 7 手に達してしまいます。でも作者は嘘のヒントは出していない。桂を跳ねるのは攻方ではなく受方なのです。

初手香打に、受方が桂の壁駒で受け、これを跳ねることで Imitator を合駒として活用するのが本局の狙い。影を玉と王手駒の間に挟んだわけですね。この手順を見れば、嘘偽りのない題名に納得です。

もう一つの主役は合駒の金。「トドメは金」の格言通りです。見た目には 64 地点が空いているのですが、ここでも桂が働いて、Imitator の壁となり、玉の足止めをしています。「影を挟んで頭金」の構図は 94-7 でも登場するので、Imitator を使った詰型の基本として憶えておく価値があるでしょう。

【短評】

たくぼんさん

題名で桂を使うと分ったが、74 桂とはビックリ。それが跳ねるのもビックリ。佳作。

変寝夢さん (※無解)

5 9 香、5 6 金、同香[72I]、6 4 玉[81I]の筋に嵌まりました。

imitator は隅っこに追いたくなるのです。

ヒントは、題名にするより文章にした方が間違いがないと思うのですが。

WFP サロンを活用する手はあると思います。

Pontamon さん (※誤解)

- ▲57 香、△56 飛、▲同香(I74)、△44 玉(I63)、
- ▲54 飛、△43 玉(I62)、▲53 飛成(I61)

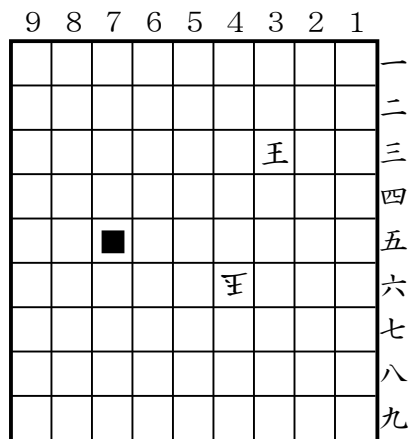
軽く跳ぶ駒は桂かと思いましたが、桂を使うとすぐに Imitator が壁にぶつかるので駄目そう。オーソドックスに合い駒の飛か金を入手して、香との連携で詰めるのだらうと予想して、まずは飛で試してみるとすんなり解けました。

☆Pontamon さんの解答は 6 手目 43 玉[I62]が自ら王手に掛かりに行く反則です。Imitator と玉の位置関係には常に注意が必要ですね。

■ 94-3 占魚亭氏作 (正解 2 名) ※実質 1 名

「郭公飛行」

協力詰 7 手



持駒 香

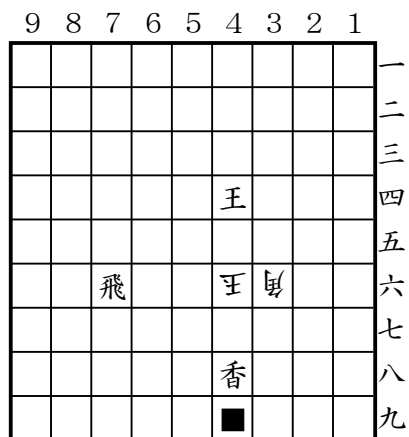
※■:Imitator

【解答】

49 香 48 飛 同香[I74] 72 角 76 飛 36 角[I38]

44 王[I49] まで 7 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

89-4 では飛車が持駒でしたが、余詰消しで石と卒を置かざるを得ませんでした。そこで今回は香を持駒にして再挑戦。推敲を重ねた結果、双裸玉になり、難易度が上がってしまいました……。タイトルは角行・飛・香を郭公飛行に変換したものです。また、6手目の角移動をカッコウ（角行）の飛行に見立てていますが、無理がありますね（苦笑）。

【解説】

今度の題名は「郭公飛行」。いかにも飛が活躍しそうな題名ですね。郭公→角行の連想から角も出てくる派手な手順が期待できます。

しかし、作意はその期待を上回る華麗さです。単に飛角が活躍するだけでなく、詰上りは普通詰将棋では見ることができない飛香による両王手。つまり「飛行」は「飛香」の意味だったのです。壁駒として発生させた角の活用も見事で、非の打ち所がありません。

コメントによると本局は同氏の 89-4 を洗練させたもののようですが、あの作と本局を比較すると、作者の Imitator を扱う腕前が大きく向上していることが分かります。

Imitator は防手が多いので、両王手をとどめに使うことが多いのですが、両王手のタイプは2種類あります。最後に動いた駒が両王手に参加するタイプと参加しないタイプです。本局は後者に属しています。最終手1手前、飛や香は玉を睨んでいるものの、Imitator によってその王手を防がれています。そして飛でも香でもなく、自玉が動くことによって、飛と香の潜在的な利きを開放し、両王手を実現します。

性能変化ルールでは普通詰将棋では不可能な組合せの両王手や多重王手を実現することができます。Imitator でも見たことのない組合せの両王手や多重王手が可能なので、これからも人気テーマとなるでしょう。

【短評】

たくぼんさん

すべての手が好手。完璧な構成。すばらしい。

☆今回の占魚亭さんの作品に正解を入れたのはたくぼんさんのみ。お見事でした。

変寝夢さん（※無解）

これは綺麗。7 2 角～3 6 角は新鮮に感じた。

Pontamon さん（※無解）

無解です。

タイトルからして、飛の合い駒を取って、打って、移動してという 94-2 と似た手順になりそうな気はしたのですが解けませんでした。94-3 と 94-4 でタイトルが逆になっているってことはないですよ。

■ 94-4 青木裕一氏作（正解 a)7名 b)6名）

協力詰 3手 ※ 2解

								王	一
									二
								と	三
									四
							▲	香	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 金  
受方持駒 金銀  
※▲:Imitator

【解答】

a)22金 24銀 12と [I14] まで 3手

(詰上り)

								王	一	
								金	と	二
										三
							香	▲	四	
								香	五	
									六	
									七	
									八	
									九	

攻方持駒 なし  
受方持駒 金



b) 12 金 34 金 22 と [I24] まで 3 手

(詰上り)

								王	一
								と 金	二
									三
						王	■		四
								金	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 銀

【作者のコメント】

詰んでいそうで詰んでいない紛れ順が狙いです。紛れの数は少ないので、解きやすいと思います。

【解説】

前局同様、両王手で詰める作品。しかも金2枚（うち1枚は成金ですが）の両王手という、Imitator 作品らしい両王手です。

本局の両王手は王手駒が直接両王手に参加するタイプなので、前局と比べると易いですが、何だかどんな手順でも詰みそうに見えて、却って混乱してしまいます。

詰んでいるのは作意の2解だけなのですが、問題はなぜこの2つの手順に限定されるかです。作者の投稿にはきちんと紛れが書かれているので、それをご覧ください。

22 金、24 X、32 と [I34] は 12 玉 [I25] で逃れ。

32 金、14 X、22 と [I24] は同玉 [I25] で逃れ。

22 金、24 金、12 と [I14] は 23 金 [I13] で逃れ。

12 金、34 銀、22 と [I24] は 23 銀 [I13] で逃れ。

つまり、作意以外では盤の端に逃げられたり、壁駒を利用されたり、壁駒を打たれたり、といった具合に Imitator を利用した受けが用意されているわけです。普通の詰将棋だと両王手には玉を逃げる以外に受けはありませんが、Imitator があると壁駒で両王手を防ぐ可能性があるのを忘れてはいけません。

本作は案の定、誤解が出たのですが、出題形式にもその一因があるかもしれません。作意が地味な作品で複数解を求めることは、解答者にとって面白味のない単調作業です。注意力の鍛錬には良いですが、ついチェックがおろそかになっても仕方ありません。例えば、受方持駒「金2」「銀2」のツインにして、各図は唯一解となるようにした方が、複数解形式より誤解は少なくて済んだと思います。

【短評】

たくぼんさん (※a) のみ正解)

面白い対比。勉強になります。

☆たくぼんさんは半分正解。もう一つは「32 金 14 金 22 と [I24] 迄 3 手」の解答。これは最終手同玉 [I25] で逃れています。たった3手でも安心できない Imitator...

縫田光司さん

受方がもう一方の持駒を打つと後で Imitator ならではの受けの鬼手が炸裂するわけですね。面白かったです。

変寝夢さん

1) 2 2 金、2 4 銀、1 2 と [I14] まで 3 手  
2 手目金打つと、引かれちゃうんですね。少し前の自作が参考になりました。

2) 1 2 金、3 4 金、2 2 と [I24] まで 3 手  
初手右か左か悩んだが、2 2 同玉を発見してスッキリ。

金銀の使い分けよりも2の2 2 同玉が一番心に残りました。短手数複数解は imitator に向いているかもしれませんね

Pontamon さん (※誤解)

▲ 32 金、△ 14 金 / 14 銀、▲ 22 と (I24)

▲ 22 金、△ 24 金 / 24 銀、▲ 12 と (I14)

初手と3手目の駒打ちでの3手詰だと思ったら、2枚の持ち駒は受け方！！

2解だけど2手目は金銀どちらでも変わりがいいないので本当は4解？

☆正解も混ざっていますが、Imitator 特有の受けが読めていません。心苦しいですが、この解答は誤解とします。

はなさかしろうさん

イミテーターの手筋ですね。緊張します。

占魚亭さん

詰上り局面の対照性がいいですね。

詰ガエルさん

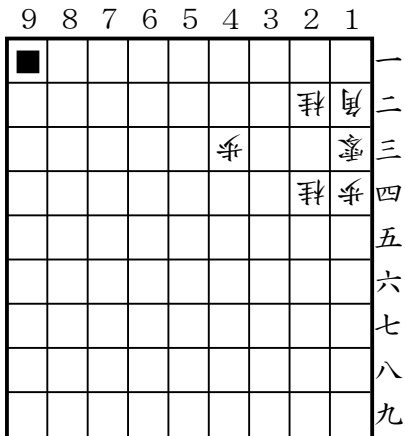
Imitatorは3手詰でも随分ややこしいですね。詰んでいるかどうかの確認だけでも一苦労です。

一乗谷酔象さん

一目、どちらでもよさそうな2手目の受方応手。  
 1)12金 34銀 22と[i24]は、23銀[i13]で逃れ  
 2)22金 34金 12と[i14]は、23金[i13]で逃れ  
 1の移動先を塞ぐ応手、合い駒ならぬ塞ぎ駒と呼ぶとすると逃れ順は双方とも両王手を防ぐ"移動塞ぎ"。  
 なるほど、ツインの対比が面白い。

■ 94-5 青木裕一氏作 (正解5名)

強欲成禁協力詰 49手



持駒 飛  
 ※■:Imitator  
 零:(0,0)-leaper王

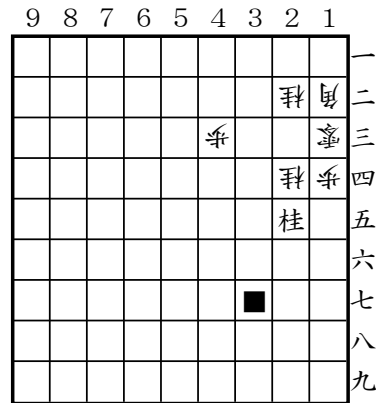
【ルール】

- 強欲  
駒を取る手を優先して着手を選ぶ。
- 成禁  
手順中に成る手があってはならない。
- Zero (零)  
(0,0)-leaper。現在位置に移動する。

【解答】

- 33 飛 23 飛 同飛生[I81] 同角[I92]
  - 11 飛 12 飛 同飛生[I93] 同角[I82]
  - 33 飛 23 飛 同飛生[I72] 同角[I83]
  - 11 飛 12 飛 同飛生[I84] 同角[I73]
  - 33 飛 23 飛 同飛生[I63] 同角[I74]
  - 11 飛 12 飛 同飛生[I75] 同角[I64]
  - 33 飛 23 飛 同飛生[I54] 同角[I65]
  - 11 飛 12 飛 同飛生[I66] 同角[I55]
  - 33 飛 23 飛 同飛生[I45] 同角[I56]
  - 11 飛 12 飛 同飛生[I57] 同角[I46]
  - 33 飛 23 飛 同飛生[I36] 同角[I47]
  - 11 飛 12 桂 同飛生[I48] 同角[I37]
- 25 桂 まで 49 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

Imitator 鋸です。余詰対策でガチガチに固めたため、紛れが無くなりました。

Imitatorを37まで持っていき、零王とImitatorの間に桂を打ちます。

【解説】

前回の作品展では占魚亭氏がImitatorのルントラウフを見せてくれましたが、詰将棋で軌跡趣向の花形と言え何と言っても「鋸引」です。

本局では詰める対象は「零」、つまり不動玉なので、桂を入手すれば簡単に詰みそうですが、Imitatorのせいで簡単には詰みません。初形でImitatorは壁に接しており、桂が跳べないからです。とりあえず桂合は諦めて、王手を続ける手順を探すこととなりますが、「強欲」の条件も付いているので、飛打飛合でないと手が続きません。角をタダで取ることもできますが、そう

すると Imitator の周辺に壁駒を打たれて手が続かなくなります。仕方なく飛打飛合を繰り返していると何と Imitator が鋸引きをしているではありませんか！「馬鋸」で例えると、三つの筋を動く四段馬鋸に相当する複雑な軌道です。

でも、鋸引きはどこまで続ければ良いのでしょうか？ Imitator 鋸は斜め右下を目指して進みますが、ただ続けているだけでは Imitator が九段目に落ちて終わりです。謎を解く鍵はやはり桂。Imitator が盤端から離れて三段目以上に来れば桂で王手が可能です。でも、Imitator から見て桂の右の跳び先に壁駒を打てば、簡単に王手が受かります。これは困りました。Imitator をどこに移動しても詰みそうにありません。

でも、実は一箇所だけ桂で詰めるチャンスがありました。壁駒を打たれそうな位置を自分自身で占拠してしまえば良いのです。つまり、Imitator の位置が 37 のときに 25 桂を打てば、受けがないのです。

本局は Imitator の移動の軌跡を鑑賞する趣向作であると同時に、盤上唯一の移動先を探す謎解きの側面も備えています。楽しい手順と、謎解きの要素を組合せた本局は、Imitator の持つ可能性と魅力を教えてくれます。

【短評】

たくぼんさん

同じ手順を繰り返しても■が動くんですね。くるくる級の趣向はまだまだありそうですね。

縫田光司さん

Imitator は厄介ですが、手数がこれだけ長いと逆に趣向作だと予想できるので解く気になりますね。先ほどのような短手数の作品も良いですが、Imitator は趣向作との相性が特に良さそうですね。

変寝夢さん（※無解）

40 手目までは分かったのですが。玉方持駒をなしと勘違いしてましたが、してなくても解けなかったと思います。金気以外で玉と imitator を挟むことができるということは、当たり前といえば当たり前なのですが、目から鱗でした。imitator+ライダー、ホッパーも面白そうですね。

ね。

井上順一さん

意味も分からずに王手を続けてイミテーターを移動させると、最後に手順の意味がわかる。

はなさかしろうさん

導入の長い一本道。出口がなかなか見つからず、一晩楽しく悩みました。

占魚亭さん

おお、Imitator 鋸！  
「やさしい(?) Imitator」結果稿で『通常盤では狭いので、拡大盤やシリンダー盤でやると面白いものが出来るかも』と書きましたが、やり方次第では通常盤でも面白い物ができるんですね。

一乗谷酔象さん

驚きの Imitator 鋸が現れた。

■ 94-6 変寝夢氏作（正解 7 名）

協力詰 5 手

									王	一
										二
								馬		三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 n角n香  
受方持駒 なし  
※n角、n香は中立駒

【ルール】

- 中立駒（「𨔵」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きと

なる（利きが非対称な駒の場合に要注意）

- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

12n 香 同角 99n 角 33n 香 31n 香成 まで 5 手  
(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								ゆ	王	一
									馬	二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
角										九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

【作者のコメント】

n 香を渡して打ってもらう。  
遠角よりも最終手が好み。

【解説】

本局は短手数ながら高級な手筋が二つも含まれています。それは駒の譲渡と最遠打。  
駒の譲渡は受方が駒不足の時にしばしば現れる手筋ですが、本局では攻方の駒も少ないので、初手に香を渡してしまう手はかなり抵抗感があります。  
でも、この香はただの香ではなく中立駒です。

相手に渡しても、すぐに自分の駒として使えるようになるので、実はあまり損にならない手なのです。使っても減らない中立駒、エコロジーの時代にふさわしい駒ではありませんか。

もう一つの重要な手筋が中立駒の最遠打。

中立駒で詰ます時、困るのが中立駒を逃がす受けです。その種の受けを防止するため中立駒を動けないところに打ちます。中立香なら最下段に、中立角なら盤隅にといった具合です。

以上2つの手筋に引けを取らないくらい味わい深いのが、最終2手。中立香の限定合から成限定の開き王手です。この2手で21玉と逃げる手を防いでいます。

更に興味深いのが、この2手に限っては中立飛より中立香の方が役に立つことです。最終手、中立杏が中立龍だと「33n 龍」が生じて詰みません。この種の原理を利用した「不利交換」も作品のネタとしては面白そうです。

本局は簡素形の短手数物で充実した手順が楽しめる好作だと思います。

【短評】

たくぼんさん（※無解）

たった5手が詰まないとは・・・  
ちょっとショック。

縫田光司さん

この駒数と手数なので手は限られているはずなのに、中立駒を一度受方に渡して合駒させるという活用法が完全に盲点に入ってしまった。解けてスッキリしました。

井上順一さん

飛道具の最短打と最遠打。  
相手の合駒を動かすのがニュートラル駒ならではの手で、見つけにくかった。

はなさかしろうさん

簡素な図から絶妙の手順！

占魚亭さん

n 駒の短打と最遠打の対比。  
n 駒なので渡しても大丈夫なんですね。

詰ガエルさん

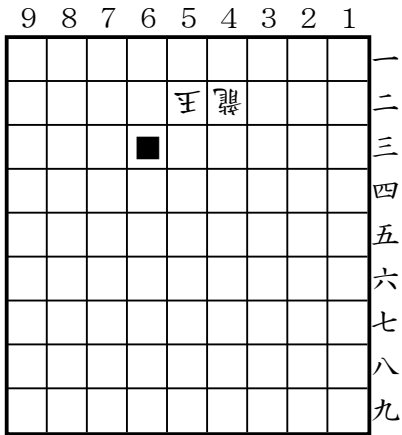
n 駒渡しに遠打と盛りだくさんの内容ですね。

一乗谷酔象さん

最近接で捨てるのがなかなか気づかない。

■ 94-7 変寝夢氏作（正解3名）

協力詰 5手

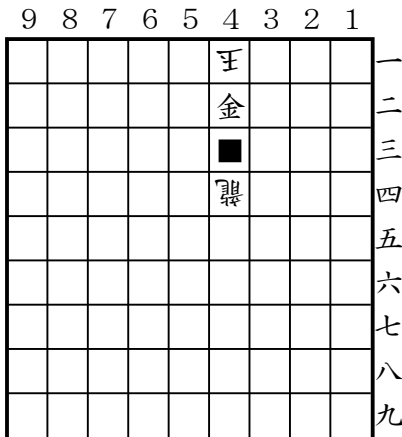


持駒 金桂  
※■:Imitator

【解答】

44 桂 同龍[I65] 53 金 41 玉[I54]  
42 金[I43] まで 5手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

詰められる側に持駒のある時は、imitator と詰められる駒の間（1マス）に詰める駒を置くのが最有力と思いました。

【解説】

占魚亭流に表現すれば「影挟」を決め手に使った一局。詰上り「1」の曲詰でもあります。初めに詰上りを見てしまうと、ごく基本的な

詰型を利用した平凡な作にしか思えませんが、正解者はわずか3名（作者も解答しているので実質2名）でした。なぜこんなことになったのでしょうか？

その主因と思われるのが冒頭の2手です。

持駒に金桂があるので、94-4 で見たような金と桂、あるいは金と成桂による両王手の筋がいかにも有力に見えます。ところが正解は、大事な桂をあっさり捨て、Imitator を利用した金の単騎詰。いかにも無駄手っぽい冒頭の2手が心理的な難解性を生み出したわけです。

本局には金を横に使った誤解答も寄せられたのですが、この原因は筆者にはちょっと見当が付きません。いずれにせよ、解答者が Imitator に慣れるにはまだ時間が掛かりそうに思います。

【短評】

たくぼんさん

てっきり金と桂のコンビで詰ますと思ったら、桂を捨てて単金で詰ますんですね。まだまだ Imitator がよく分かってないですね。

Pontamon さん（※誤解）

▲64 桂、△62 玉(I73)、▲72 桂成(I81)、△52 玉(I71)、▲62 金

持ち駒2枚なので使い方は8通り。着手可能地点も多くはないので解けました。

☆この手順は最後に受方が 61 に駒を打って王手を防げるので詰んでいません。壁駒を打つ受けには常に注意が必要です。

占魚亭さん

不詰の自作を思い出しました。

一乗谷酔象さん（※誤解）

一見、詰んでいるかわからない終図。

☆一乗谷酔象さんも Pontamon さんと同じ手順で誤解。もしかしたら直前の問題が「受方持駒なし」だったので、その影響でしょうか？

■ 94-8 変寝夢氏作 (正解 5 名)

レトロ協力詰 -4+1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
				夜				五
								六
					驥			七
								八
							王	九

攻方持駒 なし  
受方持駒 銀  
※夜:Nightrider

【ルール】

•レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

28 龍 57 夜 39 龍(+28 全) 18 全 / 19 全  
まで -4+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
				夜				六
								七
								八
					驥	王	全	九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
				夜				六
								七
							全	八
					驥	王		九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

[出題図への手順]

28 全 同龍 45 夜 37 龍 まで 4 手

[詰手順] 19 全 まで 1 手

【作者のコメント】

レトロで NR を試してみました。

【解説】

夜 (NightRider) と銀では詰型が作れそうにない。せめて金ならなんとかなるのに……こんな風に考えた人は正解を見て嘆いているかもしれません。そう、銀は裏返せば金になるのです。

将棋の小駒は成れば金になり、取られれば生駒に戻ります。つまり、レトロの世界では小駒の持駒は金と思って良いのです。

では、作者はなぜ最初から受方持駒を金にしなかったか。それは金だと最終手が非限定になるからです。作意は成銀なので 28 全を 18 全に戻すしかありませんが、金だと攻方持駒に戻す非限定が生じてしまいます。非限定がなく、それなりに紛れがある駒となると、選択肢は銀しかなかったというわけです。

作者の狙いはレトロでフェアリー駒を使うことだったのですが、むしろ「成銀」の存在感が夜より目立っているように思います。

【短評】

たくぼんさん

銀じゃ詰まないと思ったら成銀がありましたね。



**縫田光司さん**

玉が不動のまま、というのが中々思い付かずに悩みました。

**はなさかしろうさん**

夜の機能が凝縮されていますね。

■ 94-9 変寝夢氏作 (正解 6 名)

リパブリカン協力白玉詰 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
						垂			六
	馬							王	七
									八
									九

持駒 包

※包: Pao (象棋の包)

【ルール】

• リパブリカン

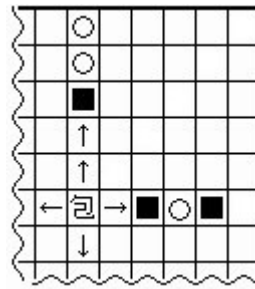
最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 4) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 5) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 6) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。白玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

• Pao (包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

(補足)

- 飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- 成ることはできない。
- 2つ以上の駒は飛び越せない。

【解答】

97 包 26 玉 96 包 37 玉 97 包 46 玉

96 包 57 玉 97 包 67 桂(+69 王) まで 10 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
						垂			六
	包	馬		王	王				七
									八
				王					九

持駒 なし

【作者のコメント】

夏向けの趣向のつもりです。

【解説】

易しい玉鋸趣向作。

無仕掛け図で持駒も包(Pao)しかないの、初手は 97 包しかありません。王手が続けられるようにするに 16 玉または 26 玉と受けて、96 包を可能にするしかありません。これに対する受けも玉を七段目に移動させるしかない…となれば、玉鋸趣向が見えてきます。

少し難しいのが収束。軽い桂合が意外と盲点かもしれません。白玉詰なのでつい大きな駒を合駒したくなりますが、包はジャンプ台の先の

駒を取れてしまうので、合駒で詰めようとする  
と、合駒をジャンプ台より包に近い位置に打た  
ねばなりません。例えば、玉が六段目にいる時  
に「96包 76金(+77王)」などという具合です。  
でも、これは全然詰んでいませんね。六段目で  
合駒を発生させる筋は無理そうです。

合駒で詰めることさえ諦めれば、盤上の 87 角  
で自玉を詰める筋を考えることができます。合  
駒を発生させるのは七段目で、合駒はあくまで  
87 角のサポート役。ここまで来れば自玉の出現  
位置が 69 であること、合駒が桂であること、玉  
鋸は玉が 57 に来るまで行うこと、等が芽づる  
式に導き出されます。

本局はあくまで軽い趣向作。でも、少し考え  
所があるだけで、作品は味わいを増します。

### 【短評】

#### たくぼんさん

置いてある 87 角で詰ますのは意外でした。  
最終手に打つ駒で王手するものだと思います  
もんね。

#### 縫田光司さん

手数を見て少し身構えましたが、解き始めて  
みると易しく楽しい軽趣向でした。  
王の出現場所も（最近のリパブリカンルール  
の出題作と比べると）素朴でホッとします。

#### 井上順一さん

9 手目まではほぼ絶対なのだが、最終手の発  
見が難しかった。  
87 角が銀だと、10 手目 76 金(+77 玉)で詰む。

☆自玉を合駒代わりに使う筋ですね。  
この方がリパブリカンらしいかも。

#### はなさかしろうさん

地道な歩進から一転、突然の意外な結末でし  
た。

☆はなさかしろうさんの解答は自玉の発生位置  
が書いていなかったのですが、解けているの  
は間違いないので正解とします。

#### 一乗谷酔象さん

王手を続ける手段が限られていて易しい。

## ■ 94-10 Pontamon 氏作（正解 3 名）

### 推理将棋

「初王手になる駒成の手で 11 手目に詰んだね」  
「ひとつの駒で、隅への不成、成、成駒の着手が  
あったのは珍しいよね」

#### 【条件】

- 1) 11 手目に初王手の駒成の手で詰み
- 2) ひとつの駒で、隅への不成、成、成駒の着手が  
あった

#### 【ルール】

##### • 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し  
手を復元する。

#### 【解答】

76 歩 52 玉 33 角生 12 香 42 角生 99 角生  
31 角生 11 角成 62 銀 99 馬 53 角成  
まで 11 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	季		季		科		
二		遊		銀	王				皇	
三	歩	歩	歩	歩	馬	歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩2

#### 【作者のコメント及び解説】

中級レベルかと思っていた推理将棋の 92-12  
が難問で出題されたので、今回は解図のヒント  
を条件に追加しました。

「ひとつの駒で」は不要なのですが、角だと  
判っても先手の角だと思いと、▲11 角不成、▲  
22 角不成、▲11 角成、▲21 馬、▲11 馬など  
では▲76 歩、▲22 角不成も必要になり手数が足  
りません。

後手角だとしても同様に 99 周りで行き来す  
るのでは後手の着手 5 手中の 5 手が必要で  
すし、先手角とのすれ違いの課題もあります。

△12 香とすれば隅から隅へ渡り歩く仕掛けが見えて、隅着手の条件はクリアできますが、これらに4手を使っているの、後手の着手は残り1手。

となれば第一候補は、△52 玉の形で腹角に53 銀成ですが、△42 銀の協力手を指すと△99 馬ができず、先手が31の銀を取ってから▲42 角へ移動した後に銀を打ってからの▲53 銀成では手数が足りません。

しかし、ここまでくれば止めの▲53 角成も見えてくることでしょう。

### 参考手順

・とどめが駒成ではない手順

▲76 歩、△62 玉、▲33 角成、△12 香、  
▲23 馬、△99 角不成、▲41 馬、△11 角成、  
▲74 金、△99 馬、▲63 金

・駒成での詰みだが、隅への成駒着手ができない  
▲76 歩、△52 玉、▲33 角不成、△42 銀、  
▲同角不成、△99 角不成、▲62 銀、△12 香、  
▲18 香、△11 角成、▲53 銀成

### 【解説】

ひとつの駒を隅から隅へと動かせという条件に基づく推理将棋。

隅から隅へ動ける駒という思い付くのは飛や角ですが、実戦初形から始まっているので、飛は思うように動かせず、該当するのは角しかありません。

問題はそれが先手・後手どちらの角かということ。素直な人なら先手の角から考えて、それでうまくいかなければ、後手の角を考えるという順番になるでしょう。

結論から言うと、正解は後手の角です。先手の角は「露払い」の役で、33 歩を取ってから避けることで、22 角が隅に動ける準備を整えます。その間、後手は1手待たされるので、この1手を12 香に費やします。これは11 地点を開けて隅への移動を可能にする手です。

こうして準備万端整ったところで、6 手目以降は後手の角による隅から隅への大移動が始まります。その間に先手は条件1)に沿った詰手順を実現します。

出題時に「難度を下げるために本来なら不要な条件も潜ませている」と書きましたが、それ

は条件2)の「ひとつの駒で」でした。この条件がなくても唯一解というのは驚きですが、はなさかしろうさんの解答を見ると、この条件がなくても「正解者ゼロ」は免れていたと思います。

### 【短評】

#### たくぼんさん

条件に合致しているとは思いますが、余詰でしょうか？

☆ここで条件文の多義性の問題が浮上。

たくぼんさんの解は「76 歩 52 玉 33 角生 42 銀 同角生 99 角生 54 銀 88 角成 \*26 歩 89 馬 53 銀成 迄 11 手」でした。

これは「隅への」という言葉を最初の一節にだけ適用した結果です。つまり2)の条件は「ひとつの駒で、隅への不成、隅への成、隅への成駒の着手があった」という厳密な表現にすべきだったのです。作意解答ではないものの、条件文の曖昧さが原因なので、解答自体は有効とします。

#### Pontamon さん

推理将棋を始めた次の月、WFP69 回掲載の推理将棋第75 回出題の75-3 の解答時、棋譜表記不問とのことなので不成の手は駒が成らない手で良いのだと勘違いして解答したところ注釈が追記されました。

△11 角は成らない隅の着手ですが棋譜に不成が付かないので、△11 角、△99 角成、△11 馬だと NG です。

☆Pontamon さんが懸念された棋譜表記依存の解答はなかったのですが、上に述べたように語句の係り受けの解釈に関する問題がありました。設問に自然言語を使う推理将棋では、誤解の余地のない文章表現が必要です。

#### はなさかしろうさん

不要な条件は「ひとつの駒で」でしょうか。

☆正にその通り。完璧な解答です。

#### 一乗谷酔象さん

まずは推理将棋から解く。

限定が強いので手順がきっちり決まる。

■ 94-11 尾形充氏作（正解 6 名）

最悪詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							馬	香	五
			龍			歩			六
						王		桂	七
								王	八
						龍			九

持駒 桂 香

【ルール】

• 最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

(補足)

・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

【解答】

46 龍 26 玉 35 龍 16 玉 26 龍 同玉  
38 桂 同飛成 28 香 27 龍 同香 16 玉  
26 飛 まで 13 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							馬	香	五
						歩	飛	王	六
							香	桂	七
								王	八
									九

持駒 なし

〔変化〕

初手 46 龍のところ

- ・ 38 香は 26 玉、35 歩、36 角、同龍まで
- ・ 29 桂は 26 玉、35 歩、56 桂、同龍、36 飛成、38 桂、16 玉、36 龍、26 桂、同龍まで
- ・ 57 龍は 26 玉で、37 龍は同飛生、38 桂、同飛成以下作意に短絡。29 香なら 27 銀、同香、16 玉、28 桂まで。

3 手目 35 龍のところ

- ・ 37 龍は同飛生、38 桂、同飛成以下作意に短絡
- ・ 35 歩は 36 角打、同龍、同角、27 香、16 玉、61 角、25 角、28 桂まで
- ・ 38 桂は 16 玉、35 歩、26 桂、同龍まで
- ・ 29 香は 27 銀、同香、16 玉、35 歩、26 桂、同龍まで

7 手目 38 桂のところ

- ・ 29 香は 27 銀、同香、16 玉、28 桂まで

【作者のコメント】

そこそこ変化のある短手数ものをやってみたくて。好き勝手できそうでいて作意順でしか詰まないところの面白さと、読む楽しさを少しでも感じてもらえたら本望です。

変化群とは無縁に淡白な作意がややアンバランスですが、枰を壊さず枰から外れずのまとめを重視した結果です。

【解説】

最悪詰は攻防共に最悪を尽くす詰将棋。

「義務だから王手するけれど、詰める気なんてないよ」と詰まないように王手する攻方と、「そんなこと言わずに詰めてくださいよ」と詰む方に誘導する受方。噛み合わない双方の思惑が奇妙な手順を生み出します。

初期の最悪詰は（特に攻方の）選択肢を極端に絞った作品が多かったのですが、近年は豊富な変化・紛れを持つ最悪詰が作られています。協力詰の垂流から脱した、最悪詰らしい最悪詰が出てきたのです。今回の 2 作もそんな最悪詰らしい手順が味わえる作品です。

初手から様々な変化に惑わされますが、玉が 26 から 16 へ遁走すると、攻方の選択肢が少なくなり、攻方は不本意ながら詰めざるを得なくなります。そこで攻方は仕方なく龍の押し売りで手を稼ぎます。

龍の押し売りの仕方は何でも良いわけではありません。例えば3手目は35龍と37龍の2つの選択肢がありますが、37龍で押し売りをすると同飛生（不成限定！）で早詰となります。遑って、初手46龍の代わりに77龍など七段目に龍を引くと、3手目37龍とせざるを得ず、これも早詰になります。そのため、46→35→26のコースが最善かつ唯一の龍の押し売りコースになるわけです。

龍の押し売りが終わった後は、38桂に同飛成（成限定！）が好手。仕方なく逆王手をする攻方28香に対して、今度は受方が龍を押し売りする27龍で収束に向かいます。

作意と変化で綺麗に分かれる成と不成、攻方が龍を押し売りする前半と、受方が龍を押し売りする後半。構成の妙が光る作品です。

【短評】

たくぼんさん

最悪詰ばかりやっている頃を思い出しますね。紛れ（変化?）も多くていい作品です。

縫田光司さん

作意と3手目37龍の変化で受方の飛の成生を使い分けたり、巧みな構成で程良く考え所のある作品と思います。

変寝夢さん（※誤解）

初手がわからない。ひっかかったかな。

☆変寝夢さんは初手57龍 26玉 37龍 16玉以下作意に合流する変別解。16玉の代わりに同飛生とする妙手は盲点になり易いですね。

井上順一さん

3手目37龍は同飛生、35歩は36角打で早く詰む。うまくできている。

占魚亭さん

前半の竜の押し売りが面白い。

詰ガエルさん

27龍がかっこいい。

一乗谷酔象さん

2筋に香を打たせる迄の攻防が見所。

■ 94-12 尾形充氏作（正解4名）

最悪詰 17手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
						飛	銀	料	歩	五
							皇		王	六
								遊		七
										八
									角	九

持駒 角 香

【解答】

- 18香 17香 同香 同飛生 27角 同玉
- 29香 28金 同香 18玉 29金 同玉
- 49飛 39金 同飛 18玉 29金 まで 17手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

〔変化〕

初手 18香のところ

- ・17香は同飛生、27角、同玉、47飛、16玉、17飛、同桂、26飛まで

5手目 27角のところ

- ・49角は48歩、同角、同香、46飛、26歩、同飛まで

7手目 29香のところ

- ・28香は38玉、48飛、29玉、59飛以下作

意に短絡

・47 飛は 16 玉、17 飛、同桂成、26 飛まで

#### 〔紛れ〕

8 手目 28 金のところ

・28 歩は同香、38 玉、39 歩、同玉、49 飛、  
38 玉、39 飛以下不詰

10 手目 18 玉のところ

・38 玉は 39 金以下不詰

#### 【作者のコメント】

こちらに変化紛れの綾を意識して作りました。攻方が非常な暴れ馬だからこそ、変化設定にはこだわりたいです。

高い合駒に安い合駒、単打に離し打、状況によって変わる攻守の方針に不利感演出の難しさを感じます。

#### 【解説】

最悪詰は攻方が不詰に持ち込むので、持駒は少ない方が良い……と考えると、初手は 17 香と短く打ちたくなります。でも、それでは駒不足が祟り、27 角から 47 飛とする筋に入って早く詰んでしまいます。最悪詰では普通詰将棋のように、「盤上の配置が同じで各持駒が多いなら、その方が必ず有利」という法則は成り立ちません。逆の法則も成り立ちません。常に状況次第なのです。

結局作意は初手 18 香以下、香打香合で 27 飛を 17 飛に移動させることになります。作意だけ追っていると、4 手目 17 同飛生は 17 同飛成でも同じに見えますが、実はここに水面下の攻防が隠れています。

5 手目今度は 27 角と短打します。ここで、49 角と遠くから打つと、48 歩、同角、同香、46 飛、26 歩、同飛で早く詰みます。この変化に 17 飛が成らなかった効果が隠れているのです。17 飛成だと 26 歩の代わりに 26 龍となりますが、それも同飛以下不詰。これが 4 手目同飛が不成限定である理由です。27 角の短打は最悪詰としては当然ですが、その前が香の離し打ちだったので対比が鮮やかですね。

でも、長短の対比はこれで終わりではありません。7 手目は 29 香と再度離し打ち。これに対する金合は最善。これは遠打を短打に変えるテ

クニックです。金合なら同香に 18 玉として 29 金を強制でき、香を短打したときに、38 玉から 38 飛、29 玉としたのと同じ展開に持ち込むことができるのです。ただし斜めに利く駒なら何でも良いというわけではありません。角や銀だと作意同様に追った後、27 に打ててしまい、不詰となります。これが 28 金合が限定となる理由です。

28 金合を同香としてからは、29 金から再び金合が登場して収束。狭い所に駒が密集する珍しい詰上りとなります。

本局は一局を通して攻方・受方双方の選択が微妙に絡み合い、しっかりした読みが要求される作品です。状況に合わせ角香を長短使い分ける手順が特に印象的でした。

#### 【短評】

##### たくぼんさん

18 にもぐり込めば王手が限定できました。  
初手 17 香の手順もまた面白い。

##### 縫田光司さん

28 香、38 玉の形から手が続くことに気付かず、2 手目に他の合駒を読んだりとかなり苦戦しました。金の限定合が巧いですね。それにしても、これだけの配置で攻方の駒（特に飛）の動きをよく制御できるものだなあと感じます。

##### 変寝夢さん（※誤解）

6 手かけて持駒を減らすのは面白い。  
1 6 手目は限定されているのかな。

☆変寝夢さんは 6 手目から「同飛生、18 香、17 金、同香、同飛、27 金、同玉、47 飛、16 玉、17 飛、同桂、26 飛まで 17 手」の解答ですが、18 香の代わりに 17 香で不詰です。ここでは香を短く使う方が良いのは面白いですね。

##### 占魚亭さん

頭 4 手がいいですね。

##### 一乗谷酔象さん

これも 26 飛までかと思ったが、意表の金合が 2 回はいった。

【総評等】

たくぼんさん

国体でなかなか時間が取れませんでした。  
全解とはいきませんでした。まあ仕方なし。  
95 回の大物に早めに取り掛かることにします。

縫田光司さん

今回の解けた作品の中では最悪詰 2 作が特に好みでした。最悪詰はしょっちゅうルールがわからなくなります(悪魔詰(でしたっけ)と混同します)が、何と言いますか不思議な解き味があるように感じられます。

はなさかしろうさん

94-7 にはまり、結局解けませんでした。  
解答発表を楽しみにしています。

☆先日詰パラHPでOT松田(佐藤完二郎)氏の訃報が伝えられました。最近筆者が詰将棋に興味を持った頃に活躍されていた作家の訃報が相次ぎ、とても淋しく感じています。昨年、WFP97 号では氏の塚田賞受賞作「夢双凧」の不詰順についてとりあげましたが、ご自身による修正図が得られる可能性もなくなりました。しかし、氏の残した数々の作品は今もその輝きを失わず、これからも多くの作家にインスピレーションを与えることでしょう。謹んでご冥福をお祈り致します。

以上





# フェアリー版くるくる作品展 7

たくぼん

久しぶりに開催したフェアリー版くるくる作品展ですが、解答者は2名と低調でした。くるくる12は解答2名、くるくる13は解答1名。くるくる12は難解ではないのもっと解答が届くと思っていたが現実は厳しかった。

くるくる13は、橋本さんから指摘がありました。後手の持駒が不明瞭（説明不足でした）投稿図の後手持駒は（n飛 2n角 n桂 4n香 4n歩 3）です。しかし作意に合駒は出てきませんので「くるくる」出題であればその旨明記するべきでした。申し訳ありません。よって解答期間を1ヶ月延長します。追加ヒントも記載しましたのでふるって解答お願いします。

## くるくる12 神無太郎作

協力自玉スタイルメイト 42手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 n歩18

「58n歩 59n歩成」×18

48nと 68玉 58nと 同玉 59n香 同玉 まで 42手

橋本孝治

普通は4手掛かる持歩を原形消去を2手で実行。中立駒二歩を避ける「n歩成」限定が味を添えていますね。次局の「n歩生」との対比するための前フリにも思えます。

井上順一

初手はこれしかないのだが、4手目に気づくのに時間がかかった。

## 【解答延長】

### くるくる13 神無太郎作

協力自玉スタイルメイト 48手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀							王	角	一
									二
									三
								金	四
								金	五
								金	六
								金	七
								銀	八
							銀	銀	九

持駒 n歩15

-ルール説明-

### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

### 【中立駒】（「」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。  
（詳しくは WFP 作品展のルール説明をご覧ください）

### 【くるくる13ヒント】

n角とn歩を上手く使ってn金とn銀を消しましょう。詰上り、後手玉以外ではn歩以外の駒はありません。

### 【くるくる13追加ヒント】

頭4手を明示します。  
22n歩 同n角 31n角成 13n馬  
ここから歩と馬を使って1.2筋の駒を消していただき。ちょっとした技も必要ですよ。

解答送り先

たくぼん takuji@dokidoki.ne.jp

解答締切：2017年11月15日（水）

# 推理将棋第109回出題解説

担当：NAO

出題：平成28年12月31日  
 解答締切：平成29年2月28日

推理将棋の第109回～第112回の解説が未発表のまま積み残しておりましたが、順次掲載いたします。たいへん遅くなりましたこと、改めてお詫び申し上げます。

第109回 出題2016年12月31日、解答締切2017年2月28日、解答19名

\*\*\*\*\*

## 109-1 中級 渡辺秀行 作 詰まされても良し 10手

「平成29年に因んで29への着手で詰みだよ。詰上図に成駒はなかったんだ」

「3手目の棋譜は58金上か。10手目に詰まされた方が金運が上がるのかね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・10手目に29地点への着手で詰んだ
- ・終局図に成駒はなかった
- ・3手目の棋譜表記は「58金上」

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

29地点の手で詰む形を推理しよう。  
 追加ヒント

8手目は37地点に同角不成。

\*\*\*\*\*

推理将棋109-1 解答

▲6八金 △3四歩 ▲5八金上 △5五角  
 ▲3六歩 △2八角不成 ▲3七桂 △同角不成  
 ▲4八銀 △2九飛 まで10手。

(条件)

- ・10手目に29地点への着手(△29飛)で詰んだ

・終局図に成駒はなかった(△28角不成～△37角不成)

・3手目の棋譜表記は「58金上」(初手68金～▲58金上)

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	飛	香	王	香	飛	科	皇	
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六							歩			
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩	皇	歩	歩	
八		角		金	金	銀				
九	香	桂	銀		玉			皇	香	

持駒 なし

年賀詰の第一問は、「29」地点の着手で詰む作品。解図は10手で詰ますための形、離し飛車の筋に気がつくかどうかは鍵です。

・最終手「29飛」で詰ますために、後手は角道を開け55～28の経路から角で飛を奪って攻め、先手が協力する。3手目58金「上」とするための初手は48金か68金のいずれかだが、後の29飛打の詰みを見越して68を先に塞いでおく。これらの条件を満たすように手順を構築すれば、初手から「▲48金 △34歩 ▲58金上 △55角 ▲36歩 △28角不成」

・先手の29桂と39銀が残っているが、飛打ちの空間を開けるため37桂と跳ね、同角不成と王手を掛けさせて48銀とすれば右銀がピンされて無力化できる。7手目から「▲37桂 △同角不成 ▲48銀 △29飛」まで。

・金を初手と3手目に着手させることによって、後手の攻め「△34歩～△55角～△28角不成～△37角不成～△29飛」に対する先手の右辺の協力手「▲36歩～▲37桂～▲48銀」がぴったりと決まりました。年賀詰めの一局目に相応しい華麗な詰上がりで、負かされた先手も金運も上がったことでしょう。

(短評)

渡辺秀行 (作者) 「例の詰上を10手にして桂

跳を入れて 29 飛打を可能としました。2 通りしかない 1 手目 3 手目の組み合わせ(実質一通り)と最終着手 29 からおおよその詰形の想像は楽かと思しますので、例のピンメイトを知らなくても解くのにそんなに難はないかと」

DD++ 「29 竜ができず 29 飛でとなると玉のコビンをどう埋めるかが問題。9 手詰でも 71 飛で成立する形ですが、無駄手を挟んでもシンプルにまとまっているのは流石」

はなさかしろう 「9 手以下で詰む手順には 2 九への着手は無いのですね。本譜は 10 手ならではの手順でした」

S.Kimura 「一番最後まで分からなかったのがこの問題でした。29 飛で終わることは予想していましたが、29 地点を空ける手と 39 の銀を何とかする手が両立できなくて悩んでいました」

斧間徳子 「1, 3 手目が明かされているので非常に易しく、おとそ気分でも解ける正月向きの作品」

Pontamon 「3 手目での『58 金上』手順は 2 択。その時点の駒配置から目指す詰み形が見えたので、すんなりと解けました」

波多野賢太郎 「3 手目金上表記の条件がなるほどなあと思いました。素直に考えたら解けました。新年の幕開けにふさわしい問題ですね」

山下誠 「3 手目が大きなヒントで、後手の角の活用が見えやすかったです」

諏訪冬葉 「"▲58 金上"から手筋を予想。銀をどかして 48 を塞ぐ△37 角のピンがぴったり」

小山邦明 「銀を動かさない収束形は面白い」

小木敏弘 「37 角の銀縛りの術に気がつくまで大いに苦労いたしました」

ほっと 「37 桂が好手」

原岡望 「妙手 37 桂で決まり」

隅の老人 B 「解けてから条件文を読み直す。合っているなど再確認」

RINTARO 「詰み形からの逆算で解けました」

占魚亭 「先手の陣形を考えるのみ」

榊彰介 「年賀詰めに合わせた 2 九の着手条件が最終手を限定しているのが上手いです」

飯山修 「29 年の最初を飾る見事な詰め上がり」

\*\*\*\*\*

正解：18 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
DD++さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
原岡望さん ほっとさん Pontamon さん  
榊彰介さん 山下誠さん RINTARO さん

\*\*\*\*\*

### 109-2 中級 斧間徳子 作 平成 29 年新年将棋大会 10 手×2

A 君「昨日の新年将棋大会はどうだった？」

B 君「いやあ、正月早々ひどい目にあったよ。2 連敗で予選落ちだよ。」

しかも 2 局ともたった 10 手で詰まされたんだ」

A 君「へえ、それは残念だったね。けど 10 手で詰まされるって

どんな将棋だったの？」

B 君「1 局目の相手はずっと同じ筋にだけ着手してきたんだ。2 局目はこれと

反対で、相手の指した 5 手はすべて異なる筋の着手だったな」

A 君「じゃあ、全然違う戦型だったんだね」

B 君「うん、けれど後で棋譜を見て気付いたんだけど、2 局とも 29 の地点に

着手があったんだ。平成 29 年の正月らしいと言えなくもないかな」

A 君「どんな将棋だったかももう少し詳しく教えてよ」

B 君「2 局とも惨敗だったからあまりしゃべり

たくないな。少しだけ言うと、

1局目は同のつく手があったよ。2局目は駒不成の手が1回だけあったけど

駒を成る手はなかったよ」

A君「そうか。どんな将棋だったかわかったよ」

さて、連敗した2局はどんな将棋だったのだろうか？

(第1局条件)

- ・10手で詰んだ
- ・29地点への着手があった
- ・後手はすべて同じ筋に着手した
- ・「同」のつく手があった

(第2局条件)

- ・10手で詰んだ
- ・29地点への着手があった
- ・後手はすべて異なる筋に着手した。
- ・駒不成の手が1回だけあったが駒成の手はなかった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

29地点へ着手する駒と手番を推理しよう。  
追加ヒント

第1局:「同」のつく手は6手目36同歩。

第2局:29地点への着手は8手目29角不成。

\*\*\*\*\*

推理将棋109-2 解答 担当 NAO

第1局

- ▲4八玉 △3四歩 ▲3八玉 △3五歩
- ▲3六歩 △同歩 ▲3七桂 △3二飛
- ▲2九飛 △3七歩成 まで10手。

(条件)

- ・29地点への着手があった(9手目▲29飛)
- ・後手はすべて同じ筋(3筋)に着手した(△34歩～△35歩～△36同歩～△32飛～△37歩成)
- ・「同」のつく手があった(6手目△36同歩)

詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	一
						飛	角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	又	歩	歩	七
	角					玉			八
香	桂	銀	金		金	銀	飛	香	九

持駒 なし

第2局

- ▲7六歩 △3四歩 ▲6六角 △同角
- ▲5八飛 △1八角 ▲4八玉 △2九角不成
- ▲5九金左 △5六桂 まで10手。

(条件)

- ・29地点への着手があった(8手目△29角不成)
- ・後手はすべて異なる筋に着手した(△34歩～△66同角～△18角～△29角不成～△56桂)
- ・駒不成の手が1回だけあった(8手目△29角不成)が駒成の手はなかった

詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩	歩	桂	桂				六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
				飛	玉				八
香	桂	銀		金	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

年賀推理将棋の2問目は条件の対比を楽しむ10手詰ツインが登場。後手は第1局では一つだけの筋を使い、第2局では五つの筋を使うので展開は全く異なります。

(第1局)

・後手が2筋だけで攻め倒すのは困難なので29着手は先手に決め打ち。そうすると先手の29着手のため、歩突き～桂跳ねが必要となる。すなわち先手36歩～37桂に合わせて後手は3筋を攻める。歩突きの攻め「△34歩～△35歩～△36歩～△37歩成」が有効であり、支え駒は飛車を三間に振ればよい。

・先手の形は、29着手だけなら「▲36歩～▲37桂～▲29飛」の3手でできる。そして、詰まされる玉は38玉型。29地点が桂から飛車に変わっているため、37地点が弱まって都合がよい。なお、48玉型なら58,59の2箇所を塞ぐ2手と玉の1手の3手要してしまい手数超過となる。

・「同」の付く手で後手が駒を取るよう進める。先手が歩突きを遅らせ5手目▲36歩とすれば6手目△36歩とできる。初手から「▲48玉△34歩▲38玉△35歩▲36歩△同歩」以下、後手飛振りと先手29着手を経れば歩成りで詰み。7手目から「▲37桂△32飛▲29飛△3七歩成」まで。

(第2局)

・後手は五つの異なる筋にそれぞれ1回ずつ着手。△34歩と角道を開けて角を飛び出していくしかない。先手に近いのは6,7,8筋のいずれかだが、唯一の不成は後の29角不成に残しておき、成る手もないので角は66地点へ飛び出す。ここに先手は角を差し出して協力する。初手から「▲76歩△34歩▲66角△同角」

・後手は先手の角を取って29桂を取りに行く。そのとき、3筋が使えないので△18角～△29角不成とする。入手した桂1枚では詰み形が作りにくそうだが、66角を利用して48玉を5筋の吊し桂で詰ます筋があった。38地点は29角の効きがあるので、先手は「▲58飛～▲48玉～▲59金左」と指し58,59の2箇所を塞いで協力する。5手目から「▲58飛△18角▲48玉△29角不成▲59金左△56桂」まで。

同じ筋と異なる筋の着手条件の対比に加え、29地点への先手着手と後手着手の手順の対比が面白い意欲作。特に第2局は短手数にしては詰形が予想し難い難解作品でした。

(短評)

斧間徳子(作者) 「第1局は正月向きを意識した易問。第2局はロジカルには解けず、正月向きでなくてすみません」

DD++ 「(第1局) まず思いつく手順がそのまま正解。年賀に相応しい軽作。

(第2局) 角が出陣するのはいいとして、この角を6手目不成にすると8手目にやるのがなく、8手目不成だと6手目にやるのがない。これを解消するために4手目に中段で取った角を6手目に打つことを閃けば答えはすぐそこ」

Pontamon 「(第1局) 29の着手に必要な3手中の歩突きと『同』に必要な歩突きを兼用することで、他の筋での手数オーバーを解決できました。

(第2局) 後手着手が全て異なる筋となると57銀までの手筋が思い浮かび、66角から48の銀を取る手順だと29着手をさせるには5筋が2回、ならば77角から68の銀を取る手順で解決と思いきや、不成が3回必要。第2局は予想以上に難しかったです。このツインは29の着手をする側も対照になっていたのですね」

小木敏弘 「(第1局) 桂で逃げ道を開けたと思いきや、自分の飛車で逃げ道封鎖。

(第2局) 中級組で一番悩みました。29桂を角で取る筋になかなか思いがいきませんでした」

S.Kimura 「(第1局) すべて同じ筋とくれば、飛車先の歩成ですよ。

(第2局) 不成が1回だけという条件が意外と難しかったです」

小山邦明 「(第1局) 年賀詰として取り組み易い条件設定で良かった。

(第2局) 今回の作品の中で一番難しかったが、何とかノーヒントで解けて満足です。角を入手してからの18角打が気付きにくい手でした」

ほっと 「手順前後を消すための条件がうまい。ただし、条件が違いすぎてそれぞれ別作品。ツインにする必然性はあまり感じられない、と言ったら怒られるか」

波多野賢太郎 「1局目の方は、詰上がりが予想しやすく易しかったです。『同』のつく手があるという条件で手順前後がなくなってるのがうまいと思いました。2局目の方は、なかなか詰上がりが浮かばなくて難しかったです。条件が対称的で楽しい2作ですね」

諏訪冬葉 「(第1局)後手が29に指すためにはすべて2筋の手にしないといけないため29は先手と断定。

(第2局)最初△29角+△47金駒を考えたが先手陣で駒を2つ取ることができず断念。それを引きずったため▲46歩が必須と思い込んで1手足りずに苦戦(△74角→△29角を考えた)。1筋から行けばよかったのか」

隅の老人B 「(第1局)助ける飛もあれば、逃げる飛もある。とにかくこの世はままたらぬ、です。

(第2局)18角打にビックリ。私じゃないよ、敵王ですよ。」

飯山修 「(第1局)同じ筋だけで29が関係するということは右側の筋しかなく到達は容易。

(第2局)この問題だけが残りに、直前ヒント待ちでした。角を取って打ち込む手は不成2回になると思ってすぐ対象外と決めつけたのですがなるほど66角とする手があるんですね」

占魚亭 「(第1局)何段目で玉が詰むか少考。

(第2局)角をどこで取るか少考」

山下誠 「(第1局)同の付く手という条件で手順を限定したのはうまいですね。

(第2局)6六角と2九角の協力で詰める形を見つけるのに一苦労でした。最終ヒントに助けられました」

はなさかしろう 「(第1局)▲2九飛のアシトが気持ち良く決まりました

(第2局)異なる筋条件が巧みで△1八角から△2九角不成がぴったり。詰み形も美しく、今回の10手2九着手で最も印象に残る手順でした」

原岡望 「(第1局)力を矯める32飛で決まり。成条件の意味は？

(第2局)妙手18角」

榊彰介 「(第1局)1つの筋のみの着手となれば飛車先の歩を突いていくのがまず浮かび、他の条件に合うのはどの筋か考える。

(第2局)2九角不成の直前の手は3筋より左から打つ手を最初に考えてしまうので、逆から攻める△1八角は思いつくのに時間がかかりました」

RINTARO 「(第1局)先手29飛と後手3筋より、詰み形からの逆算で解けました。

(第2局)ヒント頼り。面白い手順ですね」

\*\*\*\*\*

正解：18名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
DD++さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
原岡望さん ほっとさん

Pontamonさん 榊彰介さん 山下誠さん  
RINTAROさん

\*\*\*\*\*

109-3 中級 Pontamon 作

地味な指し初め 11手

「歩の突き合いで始まった今年の指し初めは地味だったね」

「派手な駒成りや目の覚めるような駒打ちもなく11手で平穩に終わってしまった」

「ま、お約束したかのように、17と29の着手はあったけどね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・初手と2手目は歩を突いた
- ・17地点と29地点への着手があった
- ・駒成りも駒打ちもなかった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

盤面の駒を活用して詰む形を推理しよう。  
追加ヒント

止めの 11 手目は 15 歩。

\*\*\*\*\*

推理将棋 109-3 解答 担当 NAO

- ▲ 1 六歩      △ 3 四歩    ▲ 1 七桂    △ 4 二玉
- ▲ 2 九飛      △ 3 三玉    ▲ 7 六歩    △ 2 四玉
- ▲ 3 三角不成    △ 1 四玉    ▲ 1 五歩    まで 1 1 手.

(条件)

- ・初手と 2 手目は歩を突いた(▲16 歩 △34 歩)
- ・1 7 地点と 2 9 地点への着手があった (3 手目▲17 桂 5 手目▲29 飛)
- ・駒成りも駒打ちもなかった

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	
二		飛						桂		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	角	歩	歩	
四							歩		王	
五									歩	
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	桂	
八										
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	飛	香	

持駒 なし

年賀詰の第 3 問は"1 7"と"2 9"の両地点の着手のある 1 1 手詰。成る手も打つ手もないので、両地点へは先手が着手し、後手玉が 1 筋方面に近づくことに気づけば自然に解けたでしょう。  
・先手は 17 と 29 に着手するため、「▲16 歩～▲17 桂～▲29 飛」と進める。先手の 16 歩と 17 桂は 1、2 筋の中段に効いており後手の協力手を待つ。後手は初手歩の手で△34 歩と開けて玉が中段に向かうよう「△34 歩～△42 玉～△33 玉」と進める。初手から「▲16 歩 △34 歩 ▲17 桂 △42 玉 ▲29 飛 △33 玉」  
・玉を端に追い詰めれば詰形を築ける。17 桂が香の効きを妨げているので角を活用すればよい。7 手目から「▲76 歩 △24 玉 ▲33 角不成 △14 玉 ▲15 歩」まで。角不成から 15 歩突きがピッタリ間に合う。

初手に突いた端歩を最終手にもう 1 歩進めて詰む、トドメの 1 手はタイトル通りの地味で渋い手ですが、玉を端に追い込む 33 角不成が年賀推理の華やかな決め手となりました。

(短評)

Pontamon (作者) 「昨年の豪勢な詰めとは一転して今年は質素な対局でした。年賀条件をクリアする 3 手は簡単なので、初手からこの 3 手を指して、17 桂を生かすための詰み形を考えれば、解くのは難しくなかったと思います。最終手で飛、角、金を打つ紛れ筋や、初手 76 歩から入って手古摺った方が居ればいいのですが」

DD++ 「成禁打禁の 10 手 11 手は中段玉と相場が決まっていて、特に 14 玉は手順も豊富。そこまでわかっても 33 角が見えるまでけっこう時間がかかりました。まさか成禁を成生限定にもう一度使っていたとは」

斧間徳子 「33 角生は十分派手な手ですが・・・(笑)」

小木敏弘 「15 歩へのひものつけ方が最高です。この詰み形を予想できなくて苦戦しました」

S.Kimura 「中段玉だとは思っていましたが、2 筋を突かないとは思いませんでした」

小山邦明 「29 飛は、玉の 33 への移動を可能にする年賀詰としても有効な一手でした」

ほっと 「詰上りが浮かべば難しくはないが、条件がシンプルでうまく出来ている」

波多野賢太郎 「この手数で 1 七と 2 九なら先手はこれしかなく、それなら後手玉に出てもらい、となるのでわかりやすかったです。でも、角不成はちょっと盲点でした」

占魚亭 「17 と 29 への着手条件で詰み形がすぐに見えました」

RINTARO 「17 桂と 29 飛に決め打てるので簡



単でした」

諏訪冬葉 「▲17 桂と▲29 飛は必須なのであと  
は▲15 歩にヒモをつける方法を考えました」

隅の老人 B 「パスは出来ない、仕方が無いので  
29 飛。王の一人旅は危ないね」

飯山修 「この作品実に良く出来ていると思いま  
す。感動モノ」

山下誠 「最終ヒントでますます頭が混乱。角を  
1 五へ利かす筋があったとは驚きました」

はなさかしろう 「▲1 七桂で香の利きを遮って  
おいての▲1 五歩、▲2 九飛と遊びながらの余  
詰消し、凄い筋ですね。手なりで△33 玉まで進  
めてみて、しばらく考えていたら突然思いつき  
ました。解后感抜群で気持ち良かったです」

原岡望 「香の利きが消えたので気が緩んだ」

榊彰介 「角桂歩で空中で仕留める詰め上がり  
がなかなか見えず、本当に詰んでるのか確認して  
しまいました」

\*\*\*\*\*

正解：19名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
加賀孝志さん キリギリスさん 小木敏弘さん  
小山邦明さん 隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん  
占魚亭さん DD++ さん 波多野賢太郎さん  
はなさかしろうさん 原岡望さん ほっとさん  
Pontamon さん 榊彰介さん 山下誠さん  
RINTARO さん

\*\*\*\*\*

109-4 中級 DD++ 作  
三羽のトリ 11手 (香落ち)

A 「お、B と C で今年も指し初めやってるな」  
B 「はい、今 17 地点で今年最初の駒トリがあ  
ったところです」  
C 「17 年の酉年だけにね！」

A 「ありゃ、そこ西暦でなのか」

B 「では 29 地点で今年 2 回目の駒トリを指し  
ますね」

C 「29 年の酉年だけにね！」

A 「いいねえ、指し初めらしくなってきた」  
B 「お次は 11 手目に今年 3 回目の駒トリを指  
しましょう」  
C 「1 月 1 日で酉年だけにね！」

A 「しかも今駒を成ったから C の玉が詰んだな  
……って 11 手？ B は後手じゃないのか？」  
B 「香落ちの上手なんです。僕の 11 香をトリ  
除いて僕から指したんです」  
C 「……」

A 「おい、C、何か言うんじゃないのかよ」  
B 「頑張ってるネタ振りしたのに」  
C 「このネタは三連 (トリプル) までなんだ。  
酉年だけにね！」  
A 「やかましいわ！」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・香落ち対局で、11 手目の駒成で詰んだ※
- ・17 地点で 1 回目の駒トリがあった
- ・29 地点で 2 回目の駒トリがあった
- ・11 手目に 3 回目の駒トリがあった

※香落ち……初形から 11 香を取り除いた状態  
で対局開始します。取り除かれた駒は対局中  
には使用できません。51 玉の側を上手、59 玉の  
側を下手といい、初手は上手が指します (つま  
り、初手△84 歩などになります)。この出題が  
香落ちなのは単なる盤面反転による数字合わせ  
が目的で、11 香の有無は作意手順の成否や余詰  
の有無に全く関係ありませんので「51 玉の側が  
初手を指す」くらいで考えていただければと思  
います。

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)  
29 地点へ移動する駒を推理しよう。  
追加ヒント  
2 回目の駒取りは 9 手目 29 香成。

\*\*\*\*\*

△3 四歩 ▲1 六歩 △4 四角 ▲1 七香  
 △同角不成 ▲5 八飛 △2 八香 ▲4 八玉  
 △2 九香成 ▲5 九金右 △3 九角成 まで11手.

(条件)

- ・11手目の駒成(△39 角成)で詰んだ
- ・17地点で1回目の駒トリ(5手目△17 同角不成で香を取る)
- ・29地点で2回目の駒トリ(9手目△29 香成で桂を取る)
- ・11手目に3回目の駒トリ(11手目△39 角成で銀を取る)

詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	香	王	香	駒	科		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
								歩	五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
	角			飛	玉				八
香	桂	銀	金	金		銀	皇		九

持駒 なし

年賀推理の第4問は"17"と"29"の両地点で駒"トリ"着手のある11手詰。両地点で各々駒を取った後、11手目の駒取り王手で詰ます設問。3回の"トリ"が入る攻めは忙しく、上手の手順は自然に限定されていきます。

・上手は最短の5手目、角で17の駒を取る。最終手の成る手を残すため17角不成とするが、次の29の駒を取るのが角以外の駒。そこで下手は▲16歩～▲17香と29に駒を残しながら香を差し出して協力する。初手から「△34歩 ▲16歩 △44角 ▲17香 △同角不成」

・取った香をすぐ打って29桂を取りにいけば、最終手39角成で銀を取る詰み形が見える。下手の協力手は詰みに近づく48玉とその退路58,59を塞ぐ手に決定。6手目から「▲58飛 △

28香 ▲48玉 △29香成 ▲59金右 △39角成」まで。▲58飛が28地点を空けながら退路を塞ぎ、▲59金右の逆モーションも39地点への効きを消しながら退路を塞ぎ、いずれも一石二鳥の協力手となった。

下手陣内の17と29を攻め方の上手が使えるよう、盤面反転のためだけに香落ちにしていますが、新年に因んだ"17"、"29"、"11"の3つを干支の"トリ"に関連付けた年賀条件がてんこ盛りの楽しい作品でした。

(短評)

DD++ (作者) 「香落ちが強引ですが、今年の年賀でこの条件が成立するなら許されるでしょう。許されるかなあ。許されるといいなあ」

小山邦明 「香が大活躍するのが香落ち対局との対比で面白い」

榎彰介 「香落ちは面白い趣向なので、香落ちならではの詰め上がりがあれば見てみたいです」

飯山修 「無理矢理香落ちにしなくても1手足して12手作品でいいような気がします」

はなさかしろう 「年賀条件トリオが美しいですね。てなりでひとりでに解けました。酉年だけにね！」

斧間徳子 「17、29、11に絡めた駒トリの3条件だけでまとめるとは凄い。手順も、28香打が新鮮」

小木敏弘 「17地点と29地点の連携でサンキューです」

ほっと 「うまく年賀要素を織り込んでいる」

S.Kimura 「手が限定されていて割と簡単に解けたのですが、『トリプル』が私には高度すぎました」

Pontamon 「2回目までの駒トリ地点にピッタリなのは桂だけど、桂や17角成だと非限定・手

順前後がある 13 手。7 手目の発見が鍵でした」

波多野賢太郎「条件がなかなか面白いと思えました。この手数なので、上手は角を出し、下手は 1 七へ香を上げて…、と考えやすかったです」

諏訪冬葉「『5 手目に角で香車を取って 7 手目に打つ』これで詰み形が見えました」

隅の老人 B「決め手は 28 香打、そういう事にしておこう」

原岡望「28 香で決まり」

山下誠「1 七で桂または香を取るとあたりをつければ容易でした」

占魚亭「いちばん易しかったです」

RINTARO「ヒント頼り。109-2-2 との 59 金の対比が面白い」

\*\*\*\*\*  
正解：18 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
DD++さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
原岡望さん ほっとさん  
Pontamon さん 梶彰介さん 山下誠さん  
RINTARO さん

\*\*\*\*\*  
109-5 上級 はなさかしろう 作  
2017 (平成 29) 年・丁酉の指し初め 20 手

「あけましておめでとう！ 指し初め中継見てきたよ」

「謹賀新年！ そうか、見逃したなあ…どうだった？」

「2017 年にちなんで 20 手目が 17 回目の駒取りでね。そこで初王手がかかって詰んだよ」

「へえ、景気の良い取り合いだね。酉年だからかな？」

「うん、そうみたい。それから、29 と 11 への着手もあったな」

「ほう、流れはわかったけど、手順を知りたいな。例えば他の干支の駒とか…」

「干支の駒？ ははあ。そうだねえ…後手が 4 連続で龍の手を指していたよ」

「なるほど。それにしても、酏の年らしいというか、あられもない将棋だねえ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・20 手目に 17 回目の駒取りの初王手で詰んだ
- ・29 地点と 11 地点への着手があった
- ・後手は 4 連続で龍の手を指した

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

双方の連続駒取りの経路を推理しよう。

追加ヒント

先手は角(馬)で 1~5 筋の 9 枚の駒を取る。  
33~43~53~31~13...のルート。後手は 8 手目 47 飛成~12 手目 67 馬の後、龍を動かして計 8 枚の駒を取る。

\*\*\*\*\*

推理将棋 109-5 解答 担当 NAO

▲7 六歩 △4 二飛 ▲3 三角成 △3 二金  
▲4 三馬 △9 九角成 ▲5 三馬 △4 七飛成  
▲3 一馬 △8 九馬 ▲1 三馬 △6 七馬  
▲2 三馬 △3 七龍 ▲3 二馬 △3 九龍  
▲2 一馬 △2 九龍 ▲1 一馬 △4 九龍  
まで 20 手.

(条件)

・20 手目に 17 回目の駒取り(先手 9 回:33 角成~43 馬~53 馬~31 馬~13 馬~23 馬~32 馬~21 馬~11 馬、後手 8 回:99 角成~47 飛成~89 馬~67 馬~37 龍~39 龍~29 龍~49 龍)の初王手(△49 龍)で詰んだ

・29 地点と 11 地点の着手(18 手目△29 龍、19 手目▲11 馬)があった

・後手は 4 連続で龍の手(14 手目以降 37 龍~39 龍~29 龍~49 龍)を指した

詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	玉	王				馬	一
									二
歩	歩	歩	歩						三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩			歩	歩	七
							飛		八
		銀	金	玉	龍			香	九

持駒 金銀桂香歩5

年賀推理の5局目は手数20手。17回の駒トりのため、双方大駒で連続して相手の駒を取り続けますが、その軌跡を求める問題です。29と11を着手点に定めており、新年に因んだ"2017"、"29"、"11"が現れます。

・20手の手順中に17回駒を取る。初手・2手目・4手目の3手は駒を取ることができないので、残りの着手は全部駒取りとなる。先後各々の着手条件を整理すると、

先手：3手目以降、11地点を含め9連続駒取り。3手目▲33角成が必然手。

後手：6手目以降、29地点を含め8連続駒取り。4連続で龍の手。20手目に初王手でトドメ。

・3手目▲33角成が王手にならないよう2手目△42飛が必然手であり、後の47飛成から龍の活用を見る。初手から「▲76歩 △42飛 ▲33角成」

・先手馬の経路は途中11地点経由なら33→43→21→11や33→43→53→31→21→11が考えられるが、いずれも11の後に取る駒が無く失敗する。したがって、11地点が先手馬の最終着手点となるよう、33→43→53→31→13→23→"32"→21→11の9連続駒取りを目指し、4手目後手の応手が△32金に決まる。4手目から「△32金 ▲43馬 △99角成 ▲53馬 △47飛成 ▲31馬」31馬の直前、△47飛成が必然手。

・後手は馬と龍での詰形を目指す。"△67馬+△49龍"がその定番であり、馬の経路は(99→)89→67に決定。また、"29"着手と4連続"龍"の条件から、龍の経路は14手目以降の(47→)37→39→29→49に決定する。10手目から「△89馬 ▲13馬 △67馬 ▲23馬 △37龍 ▲32馬 △

39龍 ▲21馬 △29龍 ▲11馬 △49龍」まで。

年賀条件が単なる付け足しでなく、"11"と"29"着手のため双方大駒軌跡が限定されるのが素晴らしく、4手目△32金が連続駒取りの鍵となりました。年賀推理将棋のトリに相応しく馬と龍が豪快に捌ける傑作でした。

(短評)

はなさかしろう(作者)「2017を20と17に分割すると差が3だったので、安直に双方連続駒取りのバリエーションで臨みました。手数は長いですが双方の絡みが少なく、我が道を行く手順になってしまいましたが、年賀ということでお許してください」

斧間徳子「32金と53馬の発見がカギ。2017や29や11という年賀詰向けの数字がわざとらしくないところがいい。年賀詰でなくても秀作だが、年賀詰として見ると大傑作」

DD++「後手の順は4手目を除きこれしかないとして、先手の順と4手目が11着手と連続取り条件だけで限定されているのがすごい」

小山邦明「収束の形を予想して、先手の馬が一番駒取りできる後手の形と馬の経路を考えたら、うまく解けました」

ほっと「先手の駒取り順が巧妙。長手数を少ない条件でうまく限定している」

占魚亭「先手は角(馬)を使うのは確定なので、駒取りのルートが分かれば後手の手も見えてくる」

Pontamon「先手も後手も駒を取り続け、予想の詰み形もひとつなので、手数の長さは気にならず簡単に解けるだろうと思ったのですが、何も考えずに駒を動かしたら26手。その後、4手目の32金はすぐに見つけたのに9地点の一筆書きに手間取ってしまいました」

小木敏弘「32金のおかげで先手の馬が使命を果たせました」

S.Kimura 「条件が限られており、最初に解けたのがこの問題でした。32 金に気づかず、11 になかなかたどり着けませんでした」

山下誠 「双方の龍と馬が縦横無尽に暴れまわる痛快な将棋。これだけ動いて王手が最終の1手のみというのも凄いです。3 二金がうまい」

波多野賢太郎 「これは凄い駒取りの連続だと思うと同時に、この条件の少なさで 20 手が限定できるのかと思いました。詰上がりと後手の駒取り手順の方が先に浮かびました。3 二金が最後にわかり、なるほど、うまくできてるなあと思いました。佳作」

榊彰介 「お互い我が道を行き、詰め上がり図は駒が捌けて(?) スッキリしました」

RINTARO 「ヒント頼りでほぼ全手順が分かりました」

諏訪冬葉 「ヒントで馬と龍の軌跡がわかって楽勝・・・と油断していたら 28 飛を取って手数不足になりかけた」

原岡望 「飛車に目が眩まなかったのが勝因」

隅の老人B 「最後に馬で 11 香を取るとはね。11 香を竜で取ると思い込んで大苦戦」

飯山修 「課題の 29 と 11 が最後に順番に現れ 2911 になるところが実に芸術的」

\*\*\*\*\*

正解：18名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
DD++さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
原岡望さん ほっとさん Pontamon  
さん 榊彰介さん 山下誠さん RINTARO さん

\*\*\*\*\*

(総評)

DD++ 「今年は解きやすい作品が揃いましたね。109-3 だけ少し考えましたが、なんとか元日解答」

Pontamon 「今年の年賀推理将棋は 29 手の長手数作がなくて幸いでした。今年もよろしくお願ひします。(この総評が読まれるのは3月かな)」

小木敏弘 「今回は、にくいほど面白いものばかりでした」

小山邦明 「17 地点や 29 地点を活かした条件の年賀詰で、バラエティに富んだ内容のため大変面白かったです。今年もよろしくお願ひ致します」

はなさかしろう 「9 手の詰みでは出て来ない着手点、2 九以外にもいくつかあるんですね。香落ちにして盤をひっくり返せば9手の詰みにも2 九への着手を織り込めますが・・・7 手目2 九飛の一択で、あまり面白くないみたいです」

ほっと 「どれも結構難しかったです。全部解けたのは1月も終わる頃」

波多野賢太郎 「今回は年賀記念の推理将棋でしたが、いずれも年賀にふさわしい作品が並んでいて面白かったです。1 1 や1 七、2 九という条件は難しそうなのに、よく作られるなあと思います。それでは、今年も一年、よろしくお願ひいたします」

隅の老人B 「1 題が解けずにヒント待ち。ヒントを読んだら5秒で解決。さて、その1 題は何番でしょうね」

原岡望 「ヒントに助けられました」

加賀孝志 「今月は参加するのみ！」

榊彰介 「今月も間に合わないかと思ったら、♯切が延長していたので間に合いました」

RINTARO 「今回は解答を諦めてましたが、締め切り前1時間でヒントを頼りに何とか解けま

した」

斧間徳子 「17 手詰がなかったのが意外でしたが、5 作ともそれぞれ違った味の作品で楽しめました。来年は"30"が使いづらいので、条件が"18"に集中し、類似作が出そうな予感が・・・」

\*\*\*\*\*  
推理将棋第 1 0 9 回出題全解答者： 1 9 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
加賀孝志さん キリギリスさん 小木敏弘さん  
小山邦明さん 隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん  
占魚亭さん DD++ さん 波多野賢太郎さん  
はなさかしろうさん 原岡望さん ほっとさん  
Pontamon さん 榊彰介さん 山下誠さん  
RINTARO さん

\*\*\*\*\*

### 推理将棋第 1 1 0 回出題解説

担当：NAO

出題： 平成 29 年 3 月 5 日  
解答締切： 平成 29 年 4 月 15 日

#### 1 1 0 - 1 初級 Pontamon 作 1 条件の妙 1 1 手

「角の着手が多かったけど 11 手で勝ったね」  
「角を取って、それを使ったからさ」  
「だから 7 手目に、44 地点での"同角左不成"  
なんて手もできたんだね」

- (条件)
- ・ 1 1 手で詰んだ
  - ・ 7 手目は 44 地点での"同角左不成"

\*\*\*\*\*

出題のことは (担当 NAO)  
"左不成"と記述する形を推理しよう。  
追加ヒント

7 手目までは自然に決まる。9 手目どこに角を成るか。

\*\*\*\*\*

#### 推理将棋 1 1 0 - 1 解答

- ▲ 7 六歩 △ 3 四歩 ▲ 2 二角不成 △ 5 四歩
- ▲ 5 三角 △ 4 四歩 ▲ 同角左不成 △ 5 二玉
- ▲ 3 一角成 △ 5 一金左 ▲ 5 三角成まで 1 1 手。詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	將	香	香		馬	科	皇	一
	飛			王					二
歩	歩	歩	歩	馬			歩	歩	三
				歩		歩			四
									五
			歩						六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 銀歩

(条件)

- ・ 1 1 手で詰んだ
- ・ 7 手目は 44 地点での"同角左不成"(6 手目△ 44 歩～ 7 手目▲同角左不成)

本作は第 1 1 0 回に因み"1 1 手詰の難度ゼロ"、棋譜を 1 手だけ示す 1 条件で全手順が判明する 1 1 手詰です。

・ 7 手目に"44 同角左不成"とするためには次の 2 点を満たすことが必要となる。

1) 5 手目で 44 地点に効きのある 2 枚の角が後手陣内にあり、その一方は 4 筋より右側(11～33)、他方は左側(71～53)であること。

2) 6 手目に 44 地点に着手すること。

・すると、7 手目迄は一本道に進む。初手から「▲ 76 歩 △34 歩 ▲22 角不成 △54 歩 ▲53 角 △ 44 歩 ▲同角左不成」

ここから受先で 4 手で詰む手順を考えればよい。8 手目から「△52 玉 ▲31 角成 △51 金左 ▲ 53 角成」まで。2 枚の角が続けて成る手順がびったりと決まった。

希少な 1 条件かつ難度ゼロの傑作です。"7 手目迄の唯一手順探索"+"8 手目からの 4 手詰"、7 手+4 手の易問 2 題を解かせることで解答者に"優しい"作品に仕上がりました。

(短評)

Pontamon(作者)「類型の第 80-1 の 9 手では後手に手が余るのに更に 2 手増やすと条件も増えそうですが、逆に少なくなっていることから『1 条件の妙』のタイトルにしました」

竹野龍騎 「1 条件の佳作。しかも易しく貴重。芋蔓式に解けて、解後感もよい」

隅の老人 B 「7 手目を指すには、5 手目には角打。これで、3 手目は角取りでした」

飯山修 「7 手目条件を満たす手順がこれしかないので判りやすい」

占魚亭 「7 手目までは一本道なので超やさしい」

波多野賢太郎 「これは素直で難度ゼロに納得で

した。この 7 手目だとこの手順が絶対ですよ」

ほっと 「これは確かに難度ゼロ。作るの難しそう？」

諏訪冬葉 「『同角左不成』でどっちの角を動かすのか迷った」

山下誠 「4 四同角左生の 1 手で手順を限定していることが凄い。角を打つ場所が決まるので、解くのは容易でした」

はなさかしろう 「先手は 3 手目以降全て角ですね。するする解けましたが、さて、攻方が強そうな 7 手目までの局面から、結局この手順しかないというのに驚きました」

渡辺 「1 1 手一条件でしかも簡単というのは掘り出し物。素晴らしい発見でした。

7 手目にチェックポイントがあるのが易しくするコツですね。1 1 手が 7 手+4 手になる。ところで、簡条書条件ですが『7 手目は 44 同角左不成』と書けばもっとすっきりします」

RINTARO 「実質 4 手詰」

斧間徳子 「8 手目からの 4 手を考える問題だが、2 枚の角を成って詰めるのがいい味」

小山邦明 「角で金、銀を取る手順ではうまくいかずに、金を逃げ道の邪魔になるように動かすのが面白い」

小木敏弘 「後手の右銀を取りたいが、4 3 に逃げられる」

S.Kimura「最後に 53 銀としそうになりました」

\*\*\*\*\*

正解：1 8 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
竹野龍騎さん 波多野賢太郎さん はなさかし  
ろうさん 原岡望さん ほっとさん

Pontamon さん 山下誠さん RINTARO さん



渡辺さん

\*\*\*\*\*

1 1 0-2 中級 Pontamon 作  
棋譜研究 (9 手目 56 金) 1 0 手

「何やってるの？」

「研究室のコピー機が故障してるから、棋譜全体をデジカメで撮った画像を PC で整理しているんだ」

「この"1 0 手詰め 9 手目 56 金"というファイル名の画像を見せてよ」

「上手に撮れているだろ。このファイル名さえあれば全手順が判るんだ」

「へえ、これだけで再現できるんだ。でも画像の転送や整理なんかしなくてもファイル名にした情報だけを手書きした方が早かったんじゃないの？」

「あっ…」

(条件)

- ・ 1 0 手で詰んだ
- ・ 9 手目は 56 金

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

先手金の経路を推理しよう。

追加ヒント

金は 66 歩を突いた後 67~56 へ移動。居玉で詰まされる。

\*\*\*\*\*

推理将棋 1 1 0-2 解答 担当 NAO

- ▲ 7 八飛 △ 3 四歩 ▲ 6 八金 △ 7 七角成
- ▲ 6 六歩 △ 7 八馬 ▲ 6 七金 △ 6 八飛
- ▲ 5 六金 △ 6 九馬 まで 1 0 手.

(条件)

- ・ 1 0 手で詰んだ
  - ・ 9 手目は 56 金(9 手目 ▲56 金~10 手目 △69 馬で詰み)
- 詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六				歩	金					
七	歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	
八		角		馬						
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 なし

本作は第 1 1 0 回に因み"1 条件の 1 0 手詰"、棋譜を 1 手だけ示す簡素条件作品です。金の経路を探せば自然に解けますが、伏線となる初手の発見が解図の鍵です。

- ・先手が 9 手目 6 段目金の手を指すのに、金移動 3 手と歩突き 1 手の計 4 手を要す。後手の角の攻めに備えるため左金を 68 地点経由の 68→67→56 の経路で動かすが、67 歩が邪魔なので▲66 歩が必要となる。先手の残りの手は 1 手だけ。
- ・後手の攻めは、△34 歩~△77 角成と角が成って馬で攻め駒を取りに行く。先手は強力な攻め駒の飛車を取らせるよう初手に 78 まで飛が移動し協力する。

初手から「▲78 飛 △34 歩 ▲68 金 △77 角成 ▲66 歩 △78 馬」先手は角成の前に金を立ち、角成の後に 66 歩と突く。後手は 78 馬で飛を入手する。

以下、先手が 56 迄金を移動する間に後手が 68 飛+69 馬の詰形を築く。7 手目から「▲67 金 △68 飛 ▲56 金 △69 馬」まで。

初手飛振り~金立ち~歩突きと手順前後を許さない駒運びが巧みな簡素 1 条件の佳作でした。

(短評)

Pontamon(作者)「9 手目 56 銀でも 1 条件になりますが、銀だと経路が狭まるので金の方になりました」

斧間徳子「この 1 条件だけで成立しているとは凄い！素晴らしい傑作」

小山邦明 「56 金実現のための 66 歩が出来るのは、77 角成の後でないといけない事からこの 1 条件で手順が限定できているのがすばらしい」

ほっと 「これだけで手順が確定するのが不思議」

渡辺 「実は昔 mixi で『10 手で詰んだ、終局図の 56 に先手の金があった』というのを出したことがあったので一瞬でした。7 手目までに 56 金を指すのは無理があるので、終局図の条件だけでも限定されています」

山下誠 「金の径路を確保しながら詰めるには、飛車を取るのが最短と考えて解きました。それにしてもうまい条件です」

原岡望 「68 飛に動揺」

S.Kimura 「後手に飛車を取らせる順を考えていたところ、突然、68 飛から 69 馬の詰みがひらめき、先手の金を 56 に移動させたら正解でした」

はなさかしろう 「裏推理的には左金を繰り出すところで、初手▲7 八飛も味が良いのでほぼ本命で行けました。玉方非協力と 10 手の相性がぴったりですね」

RINTARO 「初手に気付けば簡単」

小木敏弘 「王手を防いで、お次は飛の打ち場所作り、わが道を行く金」

飯山修 「金を後手が取って捨て、相手に打たせる事が出来るとは到底思えず、結局先手が自力で上がるしかない」

隅の老人 B 「ヒントは金の経路の推理。ひねくれ爺さん、これで金は最初に動かない」

波多野賢太郎 「この条件で手順が決まってしまうんですね。ちょっとびっくりです。詰上がりか浮かびませんでした。手順前後がないことをヒントに解きました」

諏訪冬葉 「手順前後と角の不成の可能性を潰したら 7 手目まで決まったのに最終手が見えなかった」

占魚亭 「詰み形の予想に少々手間取りました」

竹野龍騎 「1 条件の佳作。余詰まないのが不思議。金の限定移動経路を考えるが……難解。ヒントを見て、程よい難度だった。まず 58 玉型に 57 銀は防がれていると思ったためか、居玉の詰みが見えなかった」

\*\*\*\*\*

正解：18 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
竹野龍騎さん 波多野賢太郎さん はなさかし  
ろうさん 原岡望さん ほっとさん

Pontamon さん 山下誠さん RINTARO さん  
渡辺さん

\*\*\*\*\*

110-3 上級 渡辺秀行 作

遠隔詰その 1 11 手

「昨日の将棋 11 手で詰んだんだって？」  
「うん。とどめは 9 段目の着手だったよ」  
「2 手目は初手と同種の駒で付き合ったけど、歩じゃなかったよ」

(条件)

- ・11 手で詰んだ
- ・初手と 2 手目は歩でない同種駒の着手
- ・止めは 9 段目の着手

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

9 段目の手で詰む玉形を推理しよう。

追加ヒント

初手と 2 手目は詰み形への伏線。9 段目に角が打てるように。

\*\*\*\*\*

推理将棋 110-3 解答 担当 NAO

- ▲9 八香 △1 二香 ▲7 六歩 △3 四歩
- ▲2 二角成 △4 二玉 ▲2 一馬 △3 三玉

▲ 4 三馬 △ 2 二玉 ▲ 9 九角 まで 1 1 手.

(条件)

- ・ 1 1 手で詰んだ
- ・ 初手と 2 手目は歩でない同種駒(▲98 香～△12 香)の着手
- ・ 止めは 9 段目の着手(11 手目 ▲99 角)

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	飛	香		香	飛			
二		飛						王	皇	
三	歩	歩	歩	歩	歩	馬		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八	香							飛		
九	角	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 桂歩

本作は自陣の九段目の手がトドメの簡素条件 1 1 手詰。詰形の玉位置がどこか、伏線となる初手と 2 手目をどう活かすのか、推理していきます。

・ 9 段目の手は自陣角しかなく、歩以外の駒で先手の攻めに有効な初手は、9 段目の角打ちを作る手。一方、協力手となる 2 手目は、詰形を作るための手。これらが同種駒であるので候補手は限定される。

・ 同種駒は香か、玉か。99 地点に角打ちを作る ▲98 香と玉の退路封鎖をする △12 香の組み合わせが第一感。また、後手の玉移動が必須なので初手 ▲58 玉とし △15 玉や △95 玉の端玉に最終 ▲59 角の詰みを目指す手順も考えられるが手数が不足する。したがって、伏線手は前者の "香" で進める。初手から「▲98 香 △12 香」

・ 最終 99 角の筋で詰む玉型は 12 香を活かす 22 玉。角道を止める駒が邪魔であるので、▲22 角成から馬で 21 桂と 43 歩を取り除く手順を進めればよい。3 手目から「▲76 歩 △34 歩 ▲22 角成 △42 玉 ▲21 馬 △33 玉 ▲43 馬 △22 玉 ▲99 角」まで。途中、玉と馬が体を入れ替える手順が巧く、後手玉は先手馬に接近しながら 42 ～33～22 と移動する。トドメは初手 ▲98 香で

空けた 99 地点への角打ち。

最終手 "9 段目" を主眼とし序盤を付加条件とした短編推理将棋の秀作。詰形は 83-2 とほぼ同じですが味付けは異なっています。珍しい初手 "香" 着手を 2 手目とリンクさせ、序と詰形を繋ぐ手法が光る渡辺作品でした。

(短評)

渡辺秀行(作者) 「玉と馬の体が変わるのが大変そうなので 22 角 "成" が指しにくいかも」

山下誠 「最終手は 9 九角に決め打ち。その障害になるのは 2 一桂と 4 三歩の利きと考えました」

小木敏弘 「21 桂と 43 歩を取る馬の活躍を軽視していました」

はなさかしろう 「飛や香はさすがに手が足りませんでした。桂を取って 4 3 に戻る馬の動きが味が良く、初手 2 手目の香もぴたりとはまって面白かったです」

隅の老人 B 「9 段目の着手は、たぶん角打。アタリ、『こいつは春から縁起がいいわえ』です」

占魚亭 「最終手は 99 角しかありえないので、すぐに詰み形が見えました」

小山邦明 「収束は合駒きかずの角での王手と推理したのが大正解」

ほっと 「確か 10 手で最終手 22 角と打つ作があったはず。それはともかく、『その 1』とあるので続編も期待」

Pontamon 「『その 1』なので迂闊なことを書くとはネタばらしになってしまいそう。別件で第 83-2 の手順をおさらいしたばかりだったので簡単でした」

斧間徳子 「おもちゃ箱 #83-2 (ミニベロ氏作) の類似作なれど、違った味がある」

S.Kimura 「ヒントはほぼ想定内だったので、無

回答を覚悟しました。ただ、初手に玉を動かす手は消せたので、98 香、12 香を読み直し、玉を 11 か 22 に置いて、最後に 99 角で詰む形を考えたところ、正解にたどり着くことができました。調べてみたら、83-2 で似たような詰め上がりがあったのですね」

飯山修「83-2 の詰み形をすっかり忘れていました。改めて解いてみると面白い」

諏訪冬葉「△11 玉を▲99 角で詰ますことを考えたら△31 銀△43 歩△82 飛と邪魔な駒が多かった。そうか、△22 玉でよかったのか」

竹野龍騎「好作。11 玉から、44 玉、55 玉……と考えた。ヒントを見て、程よい難度だった。桂歩を消す 21 馬～43 馬と、躲す 33 玉も巧い手順」

波多野賢太郎「これは難しくて、数日間手がかりもつかめず悩みました。最初の 2 手の条件がうまいですね」

RINTARO「ヒントで詰み形が分かった」

原岡望「降参しかけたが盤に並べて解決。合駒の種をむしりとる」

\*\*\*\*\*

正解：18 名

飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
竹野龍騎さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
原岡望さん ほっとさん  
Pontamon さん 山下誠さん RINTARO さん  
渡辺さん

\*\*\*\*\*

(総評)

隅の老人 B「いつも締め切りギリギリの解答ですので、たまには一番槍を目指そうです。梅は咲いたが、染井吉野はまだまだ、でも河津桜はあちこちで開花。お花見前に解けて良かった、そんな思いの解答です」

Pontamon「近所の桜並木はもうすぐで満開。心機一転、頑張って行きます」

斧間徳子「今月は条件が簡潔な作ばかりで好みでした」

RINTARO「今回は易しめの出題で助かりました」

竹野龍騎「好作づくりの素晴らしい選題でした」

小木敏弘「ヒントのありがたさ」

渡辺「今回の締切日の変更は詰パラ原稿締切との関係で、ありがたいです」

S.Kimura「今回はヒントがなかなか出なかったのが 110-3 は無回答のまま提出するかと思いましたが、今回で出ていない解説が 3 回分たまることになりましたが、せめて正解だけでも先に出してもらえると嬉しいです」

キリギリス「上級問題は条件より詰上がり図がある程度想定できましたが、中級問題は最終形や金の経路など全く見当がつかなかったのが、上級より中級の問題がむずかしかったです」

はなさかしろう「1 手のみ 1 条件は短手数でしか成立しないと思っていたのですが、11 手でも行けるんですね。12 手以上はあるのでしょうか??」

波多野賢太郎「今月は文字通り、初、中、上級と難易がはっきりした 3 問でバランスが良かったと思います。次回は 111 回記念? ですね。楽しみにしています」

\*\*\*\*\*

推理将棋第 110 回出題全解答者：18 名  
飯山修さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
キリギリスさん 小木敏弘さん 小山邦明さん  
隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
竹野龍騎さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
原岡望さん ほっとさん  
Pontamon さん 山下誠さん RINTARO さん  
渡辺さん

\*\*\*\*\*

おもちゃ箱 2017年9月  
 占魚亭さん 対面協力詰 7手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
		飛				飛			七
									八
									九

持駒 騎

出題時のコメント： 持駒の騎はチェスのナイト

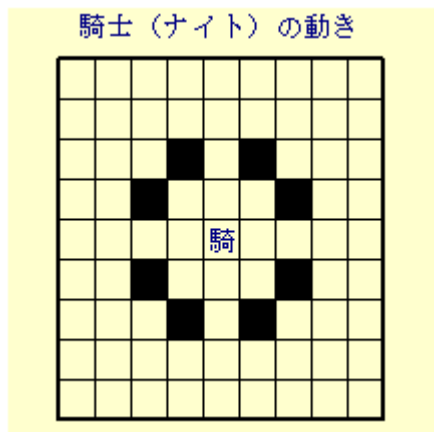
対面ルール：盤上にある任意の駒は、そのすぐ上に敵の駒が存在するとき、その駒の性能に変化する。

例えば56騎と打つと、56騎は玉の動き、55玉は騎（八方桂）の動きになる。

協力詰（ばか詰）：先手後手協力して、最短手順で後手玉を詰ます。

\*\*\*\*\*

対面ルールは、安南将棋などと同じく、盤面の配置によって駒の利き（動き）が変わる性能変化系のルールです。その条件は相手の駒と直接向き合うとき。そのとき、両方共向き合った相手の駒の利きに変わります。騎士（ナイト）の動き 持駒の騎はチェスの騎士（Knight）、八方桂です。



さて、本作、美しい無仕掛けの対称飛一色図式。持駒騎1枚ではこころもとないので、飛の入手を図りたいところ。

普通に王手したのではなかなか飛は取れませんが、そこは対面ルール。56騎、36(76)玉、37(77)騎とすれば、簡単に飛を取ることができます。7手詰なので、あと4手で詰みです。

56騎、36玉、37騎、

37騎で、36の玉はナイトの性能になったので、行ける場所は8か所。詰めるためにはなるべく端に寄せたいので、24、15、17、28が有力でしょうか。

玉が動けば37の騎が25、16、18、29に利いているので、それを利用して飛で詰められる？

- ・24玉、23飛、15玉、25飛成まで
- ・28玉、23飛、19玉、29飛成まで(27飛、19玉、29飛まで)
- ・28玉、38飛、19玉、18飛まで

普通の詰将棋ならこれで詰みなのですが、これは対面ルール。24(28、17)歩など王手を外す手があるので、まだ詰んでいません。

正解はなんと15玉に16騎で詰ます筋。23、34、36、27と逃げ道が4か所もあって、とても詰みそうにありませんが、2手で全部塞ぐ手がありました。

15玉、45飛、44角!、16騎 まで7手

45飛に44角が絶妙。これで45飛は角の利きになるので、4か所すべてに利いています。

詰上がり図

									一
									二
									三
				王					四
				飛				王	五
								騎	六
		飛							七
									八
									九

持駒 なし

作者「チェスの騎（ナイト）を使った対面協力詰です。初形が取り柄の易しい一本道の手順ですが、4五飛・4四角の2手がちょっとした考え所でしょうか。盤上に飛車が2枚ないと、初手36騎、35飛以下の順が成立します。」

美しい初形から、対面ルールと騎士の利きを活用した手順が好評でした。

★それでは、みなさんの感想を。解答到着順です。

山下誠さん： ナイトに変わった玉の利き筋を1枚で止める駒が角とは意外。形も手順もきれいな傑作だと思います。

小山邦明さん： フェアリーはルールに慣れないといけないのですが5手目が非限定になったので不安な解答です。

★89飛成までの解答。対面ルールではまだ詰んでないんです。

きたさん： 久しぶりに解答したのはこれが解けたから。詰将棋とは違って新鮮だった。

★25飛成までの解答。これも対面ルールではまだ詰んでいません。

S.Kimuraさん： 騎を37に移動させ、19玉29(18)飛までと思いましたが、飛車の頭に歩などを打つと逃れるのですね。fmza64に解かせましたが、44角は思い浮かびませんでした。

池田俊哉さん： 44角対が玉（騎）の逃げ道をすべて塞ぐ好手。二手目76玉（騎）もあるが、77飛を外してしまうと初手36騎から詰んでしまうのか...

たくぼんさん： 習いある詰上がりですが、初形55から15への王移動やら簡素な初形も素晴らしく、美しい作品と思います。

\*\*\*\*\*

カピタン展示室 No.28 解答：8名 正解5名

池田俊哉さん S.Kimuraさん 占魚亭さん  
たくぼんさん 山下誠さん

\*\*\*\*\*

最近よく出題される Imitator の作品。簡単そうに見えて結構解くのは難しいと思われている方は多いと思う。筆者もその 1 人。今回自分の勉強を兼ねて Imitator の基本を書いてみたいと思います。まずはルールのおさらい。

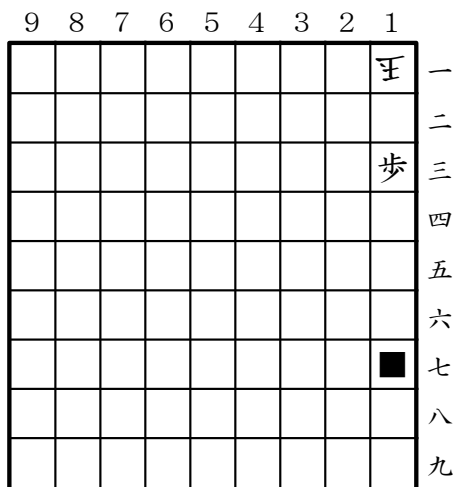
## 【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。表記法は指し手の後に、[I○○] (○○は Imitator の移動位置) と記載

補足すると、盤面の駒を動かした時に Imitator (■) が一緒に同じ方向に動く(攻方、受方共)。駒を打ったときは動かない。

ではまずルールを確認するため図で説明します。

(図 1)



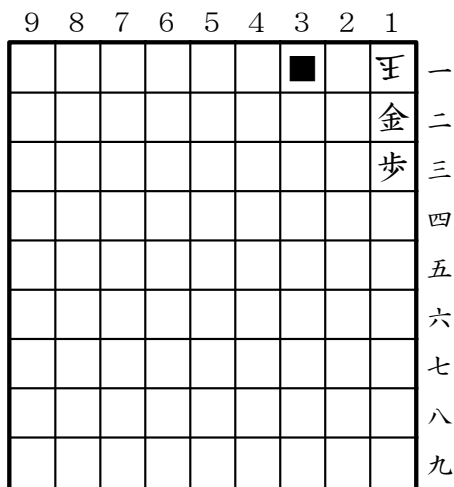
持駒 金

まず、たとえば 12 歩成とした時は 13 の歩が 1 つ前に移動したので 17 の Imitator (■と表記) も 1 つ前の 16 に移動します。(動かす駒と ■ が棒で繋がっているという感じ) その時に 11 の玉が同玉と 1 つ前に進んで取れば 16 に居た ■ は再び (受け方から見て 1 つ進んで) 17 へ戻ります。

では図から 12 金と打ってみます。駒を打ちましたので 17 の imitator は動きません。この時に気をつけないといけないのは 12 金が玉を取

るには 1 つ前にいかないといけないので ■ の位置によっては王手にならないケースがあるということです。図 1 で 17 に居る ■ が 1 段目 (21 ~ 91) に居たとすると ■ は 0 段目にはいけないため 12 金は王手になりません。(図 2)

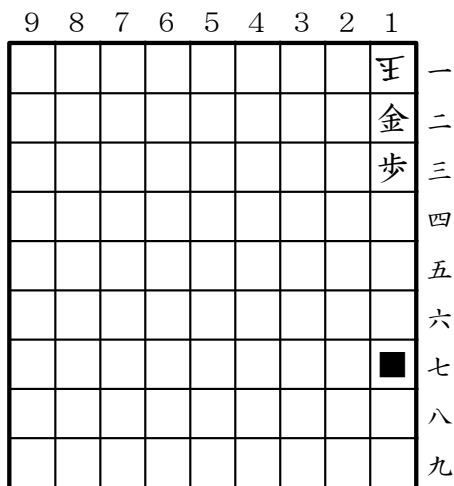
(図 2 : 王手ではない)



持駒 なし

同じ理由で図 1 (左図) での 21 金、22 金も王手ではありません。(■が右方向に寄れない為)

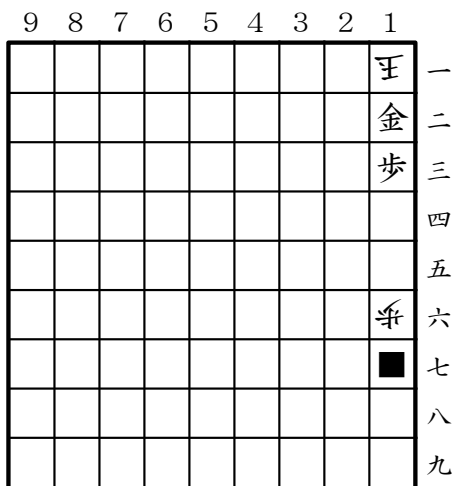
では図 1 で 12 金と打った図を見てください。(図 3) (後手の持駒は歩 1 枚と仮定します。)



持駒 なし

これで普通は詰みですよね。しかし Imitator ではこのルール特有の防手があります。■が 1 つ上に行けなければよいということで、16 に駒を打って王手を防ぐのです。16 歩!



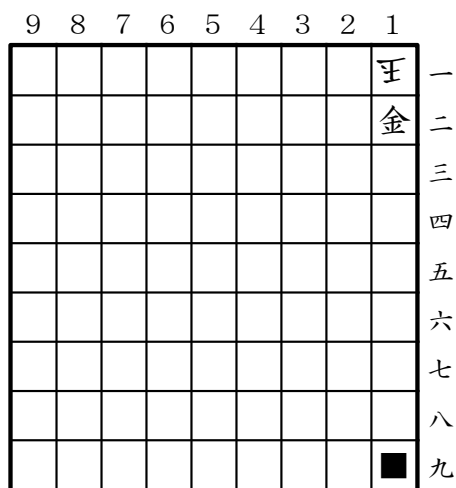


持駒 なし

この順で王手を防ぐのはとても強力な守備力なのです。というのもこの防ぎ方をされると王手をした駒(この場合 12 金)で次に王手を掛けることが出来ないのです。たとえば 21 金とすると ■ は 26 に移動しますが 16 歩の存在で王手になりません。22 金 (I27) も同様です。王手駒と玉、■ と防手駒の相対的な位置関係が変わらないためです。解図している時に、よくこれにイライラさせられますので、よく覚えておきましょう。

先ほどの図 3 は受方が歩を 1 枚持っていました。持駒なしであれば 16 に打つ駒がありませんので詰みです。

今度は Imitator の位置を 9 段目にして 12 金と打ってみます。

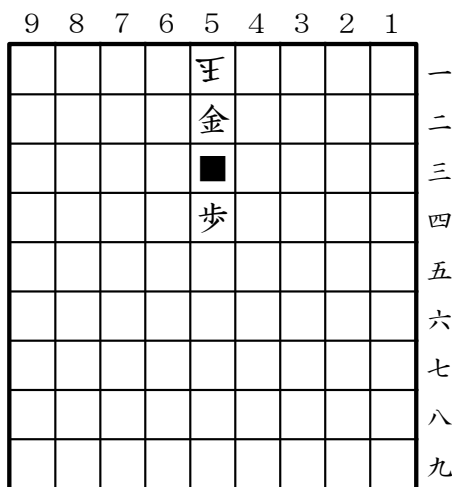


持駒 なし

この時は、11 玉は 12 金を取ろうにも ■ が十段目に行けない為取れません。よって攻方 13 歩が無くていいということになりますね。勿論受方に持駒があれば 18 に駒を打って王手を逃

れることができます。(持駒なしなら詰みです)

1 段玉、単金の頭金だけを考えると後手の持駒のあるなしに関わらず次の場合は詰みの形となります。



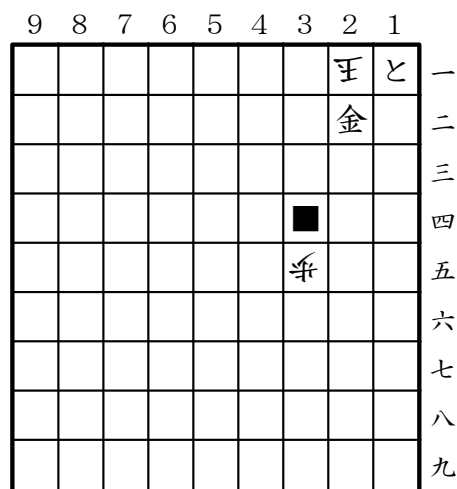
持駒 なし

54 の駒は攻方でも受方でも可です。受方最強の防手の駒打も 52 金(王手駒)が居て打てません。このように Imitator と相手玉、王手駒を接近させることは解図の 1 つの形と思います。

今月号で解答発表の 94-7 (変寝夢作) がこの形です。いろいろな詰上りを見ることはよい勉強法ですね。ここからちょっと余談です。

図 1 (受方: 歩 1 枚とします) ですが、実は協力詰 7 手で詰みます。

作意は、12 歩生[I16] 22 玉[I27] 13 金 21 玉[I26] 11 歩成[I25] 35 歩 22 金[I34] 迄 7 手詰上図



持駒 なし

Imitator には両王手が効果的です。例の防手が利かないからです。この話はまた次回に・

# WFP サロン

## 縫田光司

前回のWFPサロンで紹介しました作品の解説です。初形やルールは以下の通りでした。

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一							▲		▲	一 零+銀手0駒
二						▲	▲			二 駒
三									零	三
四										四
五									桂	五
六									▲	六 持駒
七										七
八										八 X
九										九

ルール：左横無限盤禁欲二玉詰（受先） 4手

- \* 11 と 31 の駒はロイヤル駒です。
- \* 「X」は覆面駒で、その種類は「 $((\pm m, 0), (0, \pm m))$ -rider」(ただし  $m \geq 2$ ) のいずれかに限定されているとします。なお、「 $((\pm m, 0), (0, \pm m))$ -rider」は、上下左右のいずれかの向きに  $m$  マスずつ跳ねて進める駒のこととします。(着地点に駒があるとそれより先に進むことはできません。)
- \* それ以外のルールについては前回の出題やWFP作品展のルール説明などをご参照ください。

種明かしをしますと、実はこの作品に詰手順が存在するか否かは、「双子素数が無限に存在する」という数学の未解決予想が正しいか否かと等価な問いとなります。前回の出題時に「詰むや詰まざるや？(文字通りの意味で)」と書いたのはこれが理由でした。(双子素数とは、 $p$  と  $p + 2$  がともに素数であるような数  $p$  のことです。) なお、その際にも少しだけ触れましたが、WFP 110 号の第 92 回WFP作品展結果稿で、神無七郎氏による私の作品の解説の中に「数学上の未解決問題に対応する詰将棋も作れるのではないか？」という一節があり、それを実際に

やってみた、というのが本作の動機です。

以下、本作の内容を説明します。まず、(双子素数が無限に存在する、と仮定した際の) 作意手順は下記の通りです。

### 【作意】

41 飛、14 X (=  $((\pm 3, 0), (0, \pm 3))$ -rider)、同金、23 桂生 まで。

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一						▲	▲		▲	一 零+銀手0駒
二						▲	▲			二 駒
三							桂			三
四									零	四
五										五
六									▲	六 持駒
七										七
八										八
九										九

上記の通り、作意手順自体には双子素数は現れません。双子素数は変化手順に関係してきます。

### 【変化手順の説明】

初手が 41 飛以外(鬼を打つ手も含む)のとき、整数  $N$  を十分に大きく取ること、

(\*) 一段目の  $N$  筋およびその左側には駒が無く、また受方の駒の利きも無い

という状況が実現できます。初手に鬼を打った場合については、攻方 15 桂の存在により、鬼は 15 桂よりも遠い場所に利きを持たないことに注意してください。なお、飛は売り切れのため持駒に飛はありません。

ここで、「双子素数が無限に存在する」と仮定すると、 $N-3$  よりも大きな  $p$  で、 $p$  も  $p + 2$  もともに素数であるものが存在します。この  $p$  について、2 手目  $(p+3, 1)$ X 打、という手を考えます。このとき、X から二つのロイヤル駒零+までの距離がそれぞれ  $p$  と  $p + 2$  となります。ここで、2 手目は王手でなければならないので、

Xは零+のいずれかに利いているはずであり、Xの種類制約から、 $m$ は $p$ の約数または $p+2$ の約数に限られます。今、 $m \geq 2$ であり、また $p$ も $p+2$ も素数なので、 $m$ の可能性は $m=p$ または $m=p+2$ のいずれかしかあり得ません。そして、 $m=p$ のときは31零+に、 $m=p+2$ のときは11零+に王手が掛かっていますが、 $m$ が素数なのでこの王手はXが一步で(途中で着地せず)取りを掛けている手であり、合駒で利きを遮ることはできません。また、上記(\*)の性質から、Xを取れる受方の駒もありません。

以上により、初手が41飛以外の手のときは以下1手で早詰となります。なお、作意の2手目14Xについて、11零+までの距離が3(素数)のため、上と同様の理由でXの種類は $m=3$ に確定し、受方には14同金以外にこの王手を防ぐ手段がありません。そのため3手目14同金と駒を取る手は禁欲ルールに反しません。

#### 【紛れ手順の説明】

まず、以下のことを注意しておきます。

(\*\*) 攻方がXを打って王手したとき、Xのマスに受方の駒が利いていれば、受方は(禁欲ルールに反することなく)Xを取ることができる。

なぜなら、Xから王手されている駒までの距離を $L$ とすると、もし $m=L$ であるならば、この王手を合駒で防ぐことはできずXを取るのが唯一の応手になるので、その状況でXを取る手は禁欲ルールに反しません。すると、受方がXを取る手を可能にする覆面駒の種類を選び方が存在することになり、受方はXを取る手を着手することができます。

上記(\*\*)を踏まえると、2手目に一段目にXを打つ手は同飛以下逃れます。2手目に17~19にXを打つ手は同飛以下逃れます。2手目に3筋にXを打つ手は同香以下逃れます。さらに、2手目から23桂生、同金の後、1筋にXを打つ手も同飛で逃れます。

【双子素数が無限に存在しないならば不詰であることの説明】

双子素数が無限に存在しないとすると、整数 $N$ を十分に大きく取ることで、 $N-3$ より大きな整数 $p$ について $p$ と $p+2$ の両方が素数とはならないようにできます。このような整数 $N$ について、初手で(N,2)地点に鬼を打つ手を考えます。

これに対し、2手目に(a,1)地点にXを打つ手を考えてみます。Xの種類制約により、王手にするためには $a \geq 4$ である必要があります。ここで $a \leq N$ とすると、(N,2)地点の鬼からこのXまでの距離は、他の盤面唯一の攻方駒である15桂までの距離よりも近くなります。そのため、上記(\*\*)を踏まえると、受方はXを鬼で取ることができ、以下逃れとなります。

次に $a \geq N+1$ とすると、Xから31零+までの距離は $a-3$ (これを $p$ と書きます)、11零+までの距離は $a-1=p+2$ です。 $a \geq N+1$ なので $p \geq N-2$ です。今、 $N-3$ より大きな双子素数が存在しないように $N$ を選んでいしますので、Xから31零+までの距離 $p$ が素数でないか、11零+までの距離 $p+2$ が素数でないかの少なくとも一方が成り立ちます。その素数でない方の距離(これを $L$ と書きます)の約数の中には1でも $L$ 自身でもないものがあります。その中で2より大きなものの一つを $d$ とおきます。(上記の性質を満たす $N$ は少なくとも7以上ですので、 $L$ は5以上であり、2より大きく $L$ 自身ではない約数が確かに存在します。)

すると、Xから31零+までの距離 $L$ が素数でない場合には、もし $m=d$ であるとする受方は31零+に掛かっている王手を(d+3,1)歩の合駒で防ぐことができます( $d$ は2より大きいので、このとき11零+にも王手が掛かっているという可能性はありません)。このように受方が3手目に(d+3,1)歩を打てるような覆面駒の種類可能性がありますので、受方は3手目に(d+3,1)歩と着手できます。一方、Xから11零+までの距離 $L$ が素数でない場合にも、同様の理由で、受方は3手目に(d+1,1)歩と着手できます( $d$ は2より大きいので、(d+1,1)地点は駒で埋まっています)。

これらの歩の合駒に対して、禁欲ルールなので

攻方は直ちにXで歩合を取ることはできず、23桂生がこの局面で唯一の可能な着手となります。受方はこれに同金と応じます（駒を取らずにこの王手を防ぐ手段はありません）。そうした後の局面で攻方が可能な着手はXで先程の歩合を取る手のみなので、攻方はXで歩合を取ります。この時点で盤面に他の攻方の駒が無いため、上記（\*\*）と同様の理由により受方は鬼でXを取れます（ $m=d$ なら禁欲ルールに反しないため）。すると、攻方の手の可能性は12歩のみとなり、同鬼で逃れとなります。

このように、初手(N,2)鬼に対して一段目にXを打つ手は逃れることがわかりました。一方、上記（\*\*）により、3筋にXを打つ手は同香以下逃れとなり、14Xは同鬼以下逃れとなり（鬼からは15桂よりも14Xの方が近いので）、17～19にXを打つ手は同飛以下逃れとなり、また23桂生は同鬼以下逃れます（盤面に攻方の駒が無くなったので、次にどこにXを打っても同鬼と取られます）。

以上のように、双子素数が無限に存在しないとするとこの作品には詰みがありません。こうして、この作品に詰手順が存在するか否かが、「双子素数が無限に存在する」という未解決予想が正しいか否かと等価であることがわかりました。これで本作の説明を終わります。

\*\*\*\*\*

### 神無太郎

九路盤は狭すぎる。まして夜を使うとなるとなおさらだ。～第4番の条件訂正～

神無太郎

2017年7月のWFP 109号と2017年9月のWFP111号に掲載した下記問題について、条件を訂正します。

同号の第93回WFP作品展出題の93-1についても、駒打禁止の範囲の訂正がありました。それと同様の訂正です。

### 第4番

#### 左下無限盤協力詰 113手

									○			一
									○	王		二
									○	○	○	三
											卒	四
												五
												六
												七
												八
												九

攻方持駒夜  
受方持駒なし

夜：Nightrider {(1,2)-Rider} [1+0]

○：奔（着手不可、透過） [5]

※4×4～64019×64019の範囲の枡は駒打不可

この水色マーカ部分を以下のように訂正します。

※盤上のx筋y段の枡を(x,y)と表すとき、

(m,n)、(n,m)は駒打不可

ただし、 $4 \leq m \leq 64019$ 、 $1 \leq n \leq m$

図示するようになります。\*が駒打不可の枡で、 $N=64019$ です。

...	N+1	N	N-1						5	4	3	2	1	
		*	*		*	*			*	*				一
		*	*		*	*			*	*				二
		*	*		*	*			*	*				三
		*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	四
		*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	五
		*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	...
		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	N-1
		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	N
		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	N+1
		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	⋮

以上

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2017年11月10日(金)

推理将棋第116回出題  
推理将棋 3題

### 2017年11月15日(水)

第95回WFP作品展  
フェアリー作品 13題  
推理将棋 1題

フェアリー版くるくる作品展7  
くるくる13 1題 (解答延長)

### Fairy of the Forest#53

協力詰 3題

### 2017年12月15日(金)

第96回WFP作品展  
フェアリー作品 13題  
推理将棋 1題

### 第92回WFP作品展 92-13 (再出題)

フェアリー作品 1題

### 第96回WFP作品展特別出題

フェアリー作品 1題

## 作品募集締切一覧

現在ありません

## 原稿募集

詰パラでいう所の「読者サロン」のようなコーナーを設けようと思います。安易なネーミングですが、「WFPサロン」と名付けます。内容は何でも可です。投稿はメールにて編集部までお願いします。掲載は20日ですが、月末までに投稿頂いたもの(その月発行号への感想や意見など)については改訂時に追加掲載します。

## あとがき

先月号の巻頭の作品の解答を載せておきます。

たくぼん作 強欲協力詰 52手(受先)

		と	王			將				一
	歩					と		馬		二
	歩					歩	香	と		三
		科	と			香		と		四
										五
		卒				王	歩			六
	と		角			歩		銀		七
	手	香				香	と			八
	香		と			と				九

持駒 なし

71玉 82歩成 同玉 83歩 同玉 74と 同玉 86桂 同杏 85角 同玉 86と 同玉 88香 同金 78桂 同金 87香 同玉 78と 同玉 68金 同玉 58と 同玉 48と 同玉 38金 57玉 47金 同玉 38銀 36玉 37歩 同全 同銀 同玉 26銀 同玉 25と 同玉 24と 同玉 33馬 同玉 32金 同銀 同と 同玉 41銀 同玉 42歩成 まで 52手

井上順一さんより感想を頂きました。

井上順一：CARPの文字が一文字ずつ消えていくのがうまくできていると思います。

良く考えたら CARP が消えちゃまずいですね。

たくぼん

2017年 第112号

## Web Fairy Paradise

非売品  
平成二十九年十月号  
平成二十九年十月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市  
発行兼編集人 須川卓二  
発行所 Web Fairy Paradise 編集部  
問合せ takuji@dokidoki.ne.jp